改訂版

学校全体で組織的に進める

カリキュラム・マネジメント

令和２年１月

大分県教育委員会

はじめに

平成２８年12月21日，中央教育審議会答申「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について」が示され，平成29年3月31日に新しい学習指導要領が告示されました。今回の改訂では，「社会に開かれた教育課程」の重視や確かな学力，豊かな心，健やかな体の育成を目指し，

〇育成を目指す資質・能力の明確化

〇「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

〇学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進

が求められています。

大分県教育委員会では，これまで「新学習指導要領への移行スタート」（平成30年2月）等において「育成を目指す資質・能力の明確化」，また，「新大分スタンダードのすすめ」（平成２９年３月）等において「主体的・対話的で深い学び」について説明を行ってきました。本冊子は「カリキュラム・マネジメント」についてご理解いただくことを目的に作成しています。「カリキュラム・マネジメントとは何か」については【理論編】で，また，「カリキュラム・マネジメントを推進さらには充実していくためにはどうすればいいのか」については【実践編】で詳しく説明しています。

新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育実践を移行期間から展開していくためにも，ぜひ本冊子をご活用いただければと思います。

目　次

はじめに ……1

目次 ……2

【理論編】

中教審答申と学習指導要領を読む ……3

【実践編】

1　全体計画～教育目標を踏まえ，つなぐグランドデザイン～ ……17

2　カリキュラム・マネジメントの充実による教育目標の実現 ……28

3　カリキュラム・マネジメントと主体的・対話的で深い学び ……37

4　総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメント ……43

おわりに ……51

参考資料 ……53

【理論編】

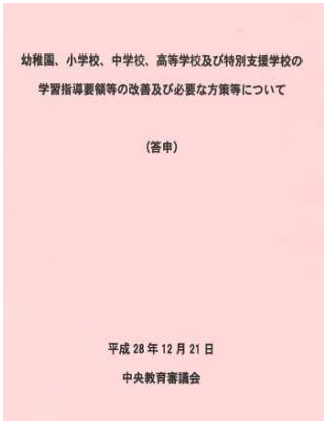
中教審答申と学習指導要領を読む

（H28.12.21）　　（H29.3.31）

中教審答申と学習指導要領を読む

新しい学習指導要領では，これまでの学校教育の実践や蓄積を生かして，子供たちが新しい社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指すことが示されています。

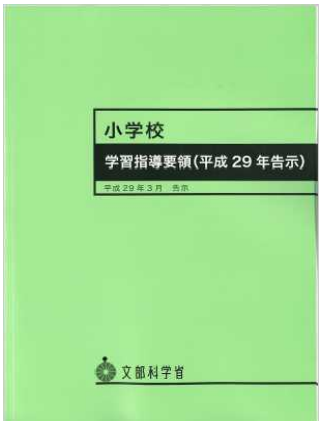
今回の改訂は，中央教育審議会答申（「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について」平成28年12月21日）を踏まえて行われており，本答申を併せて読むことで，学習指導要領の理解を一層深めることができます。



（第2章　2030年の社会と子供たちの未来　より）※一部抜粋

〇社会の変化は加速度を増し，複雑で予測困難となってきており，しかもそうした変化が，どのような職業や人生を選択するかにかかわらず，全ての子供たちの生き方に影響するものとなっている。

〇このために必要な力を育んでいるのが，人間の学習である。（中略）子供たち一人一人が予測できない変化に受け身で対処するのではなく，主体的に向き合って関わり合い，その過程を通して，自らの可能性を発揮し，よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにすることが重要である。



【学習指導要領　前文】より

これからの学校には，（中略）一人一人の児童生徒が，自分のよさや可能性を認識するとともに，あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え，豊かな人生を切り拓き，持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

生きる力 の育成

中教審答申と学習指導要領を読む

【学習指導要領　前文】より

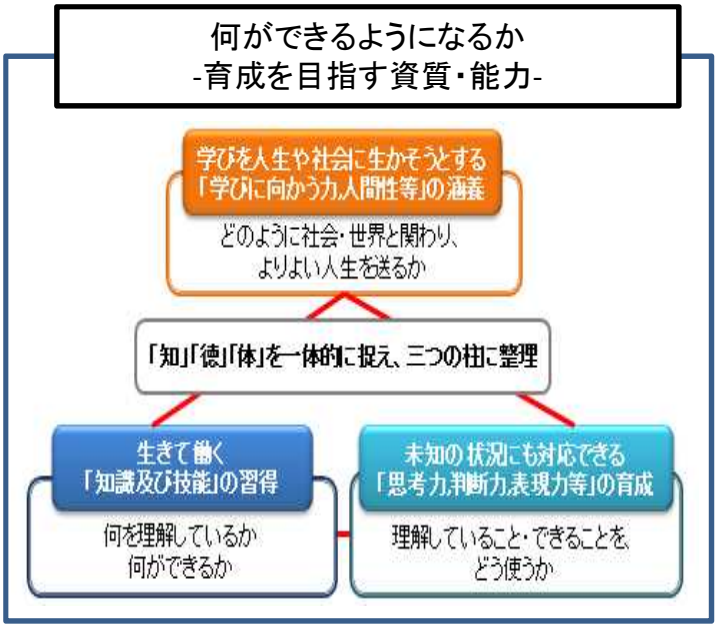
　これからの時代に求められる教育を実現していくためには，よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有することが求められる。
　そのため，それぞれの学校において必要な学習内容をどのように学び，どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを**教育課程**において明確にしながら，社会との連携・協働によりその実現を図っていくという，**「社会に開かれた教育課程」の実現**が重要となる。

【教育課程とは】
　学校教育の目的や目標を達成するために，教育の内容を子供の心身の発達に応じ，授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画

　今回の改訂は，「生きる力」の育成という教育目標が各学校の特色を生かした教育課程の編成により具体化され，教育課程に基づく個々の教育活動が，効果的につながっていくようにすることを目指している。
　そのためには…

「何を学ぶか」という知識の質・量の改善とともに，
「どのように学ぶか」という学びの質や深まりを重視し，
「何ができるようになるか」まで見通した改善を図ることが必要

　また，知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むために，「何のために学ぶのか」という各教科等を学ぶ意義を共有しながら，授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していくことができるようにするため，全ての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」「学びに向かう力，人間性等」の三つの柱で再整理されているということも確認しておくことが大切です。



　以上を踏まえ，各学校では，自校のミッションは何かを問い直し，その実現のために保護者や地域の人々と協働して取り組みながら，学びの主体としての子供を育成していきます。

中教審答申と学習指導要領を読む

【第１章　総則　第１の４】
　各学校においては，児童生徒や学校，地域の実態を適切に把握し，教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容を教科等横断的な視点で組織的に組み立てていくこと，教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと，教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともに，その改善を図っていくことなどを通して，教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。

カリキュラム・マネジメントの充実のためには・・・

①以下に示す三つの側面を通して，教育課程に基づき組織的かつ計画的に学校の教育活動の質の向上を図っていくこと
②全ての教職員の参加により，学校の特色を創り上げていくこと

が大切です。

カリキュラム・マネジメントとは，新しい理論でも，負担になる作業でもありません。
　これまでの「見えにくい学校経営の営み」を視覚化して，わかりやすく整理したものです。

（愛知教育大学　倉本哲男先生　講義資料より一部抜粋）

カリキュラム・マネジメント三つの側面

○児童生徒や学校，地域の実態を適切に把握し，教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと。

○教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと

○教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと

「カリキュラム・マネジメント三つの側面」等については，H30.2 大分県教育委員会発行の「新学習指導要領への移行スタート」でも説明しています。ぜひそちらもご活用ください。

今回の改訂では，各学校におけるカリキュラム・マネジメントを円滑に進めていく観点から，総則の項目立ても以下のように整理されています。

①小（中）学校教育の基本と教育課程の役割（第１章総則第１）
②教育課程の編成（第１章総則第２）
③教育課程の実施と学習評価（第１章総則第３）
④児童（生徒）の発達の支援（第１章総則第４）
⑤学校運営上の留意事項（第１章総則第５）
⑥道徳教育に関する配慮事項（第１章総則第６）

こうした総則の全体像も含めて，教育課程に関する国や教育委員会の基準を踏まえ，自校の教育課程の編成・実施・評価及び改善に関する課題がどこにあるのかを明確にして教職員間で共有し改善を行うことにより学校教育の質の向上を図り，カリキュラム・マネジメントの充実に努めることが求められています。

ここからは，カリキュラム・マネジメントを充実させるための５つのポイントについて説明します。

学習指導要領や
児童生徒の実態
等を踏まえた
教育課程の編成

ポイント3

H30年度
教育課程

〇〇学校

ポイント4

授業の実施

ポイント2

学校・地域・児童生徒の
実態

カリキュラム・マネジメントによる
教育目標の実現

ポイント1

生きる力
の育成

短期と長期のPDCA
サイクルによる評価・改善

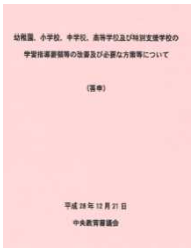
ポイント5

ポイント1

「生きる力」の育成

これまでは「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和を重視した「生きる力」の育成を目指してきました。今回の改訂で「生きる力」の捉え方が変わったのではありません。「生きる力」の意義を改めて捉え直すとともに，「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」は相互に関連し合いながら一体的に実現されるものであるということから，資質・能力の三つの柱で再整理されたのです。

【学習指導要領解説　総則編　第３章第１節３】
児童（生徒）に知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むことを目指すに当たっては，各教科等の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら教育活動の充実を図ること，その際には，児童（生徒）の発達の段階や特性を踏まえ，「知識及び技能」の習得と「思考力，判断力，表現力等」の育成，「学びに向かう力，人間性等」の涵養という，資質・能力の三つの柱がバランスよく実現できるように留意すること。



【中央教育審議会答申　第5章2】

学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力,人間性等」の涵養

どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか

・主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力
・多様性を尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力

を育むことが重要

「知」「徳」「体」を一体的に捉え，三つの柱に整理

生きて働く「知識及び技能」の習得

何を理解しているか
何ができるか

“何年にこうした出来事が起きた”という事実的な知識が現代の社会にどう関わっているかなど，個別の知識の定着を図るとともに，社会における様々な場面で活用できる概念としていくことが重要

未知の状況にも対応できる「思考力,判断力,表現力等」の育成

理解していること・できることを，どう使うか

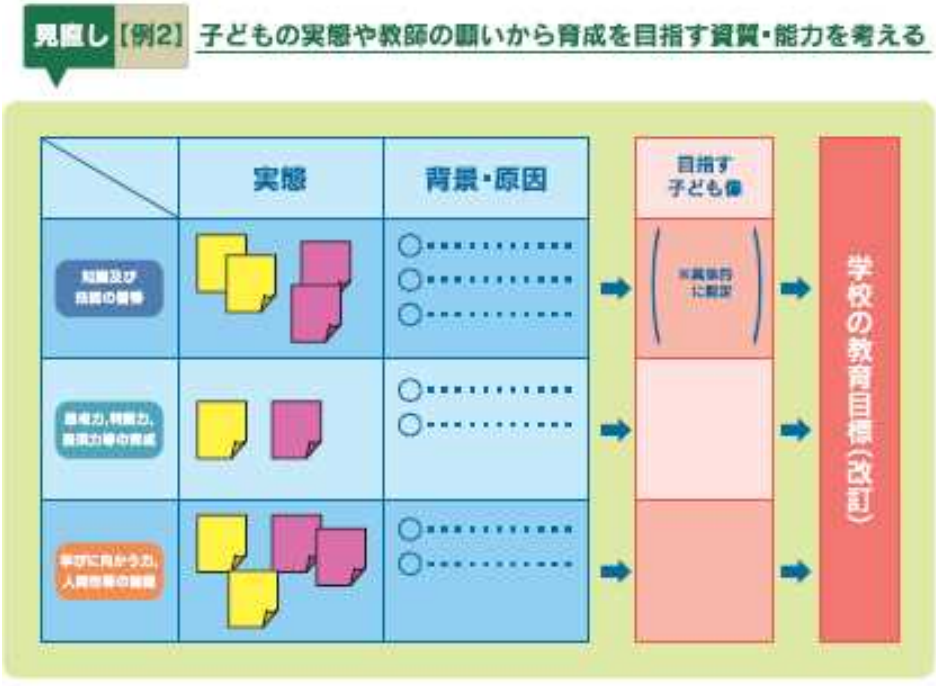
・新たな情報と既存の知識を適切に組み合わせて，それらを活用しながら問題を解決したり，考えを形成したり，新たな価値を創造していくために必要となる思考
・必要な情報を選択し，解決の方向性や方法を比較・選択し，結論を決定していくために必要な判断や意思決定
・伝える相手や状況に応じた表現　ができるようにすることが重要

ポイント2

学校・地域・児童生徒の実態把握

各学校においては，自校の教育課程の編成，実施，評価及び改善に関する課題がどこにあるのかを明確にして教職員間で共有することが大切です。

H30.2 大分県教育委員会発行「新学習指導要領への移行スタート」では，教育課程編成の際に特に重要となる学校の教育目標の設定，見直し例として，以下に示している2例を紹介しています



大分県教育委員会ホームページ
http://www.pref.oita.jp/uploaded/attachment/2018421.pdf

今回は，学校の教育目標の設定や見直しに加え，カリキュラム・マネジメントの充実を目指し，学校のカリキュラム全体を見直す際に効果的なツールである①SWOT分析と，②大阪教育大学　田村知子教授　作成の「カリキュラムマネジメント・モデル」を使った分析を紹介します。

【例１】 SWOT分析

学校の内部環境の具体的な状況を「強み（S）」と「弱み（W）」に，学校を取り巻く外部環境の具体的な状況を「機会（O）」と「脅威（T）」に分類することにより，多様な観点から特色ある学校づくりや課題に解決策を検討し，学校の教育目標の実現につなげていきます。

	内部環境	外部環境
プラス面	強み（Strength） 学校内の環境や資源の中で，活用できるもの	機会（Opportunity） 学校外の環境や資源の中で，学校に支援的に働くもの
マイナス面	弱み（Weakness） 学校内の環境や資源の中で，修正すべきもの	脅威（Threat） 学校外の環境や資源の中で，学校に阻害的に働くもの

前ページで紹介した【見直し例2】にある「実態」の黄付箋は，この表での「S」（内部環境のプラス面），赤付箋は，「W」（内部環境のマイナス面）の部分に整理された児童生徒の姿に関する項目と重なります。

〔SWOT分析の例〕

＜内部環境の例＞
ヒューマンウエア
　児童生徒，教職員，管理職
ハードウエア
　施設・設備，研究指定，予算
ソフトウエア
　校風・伝統，文化，風土　　等

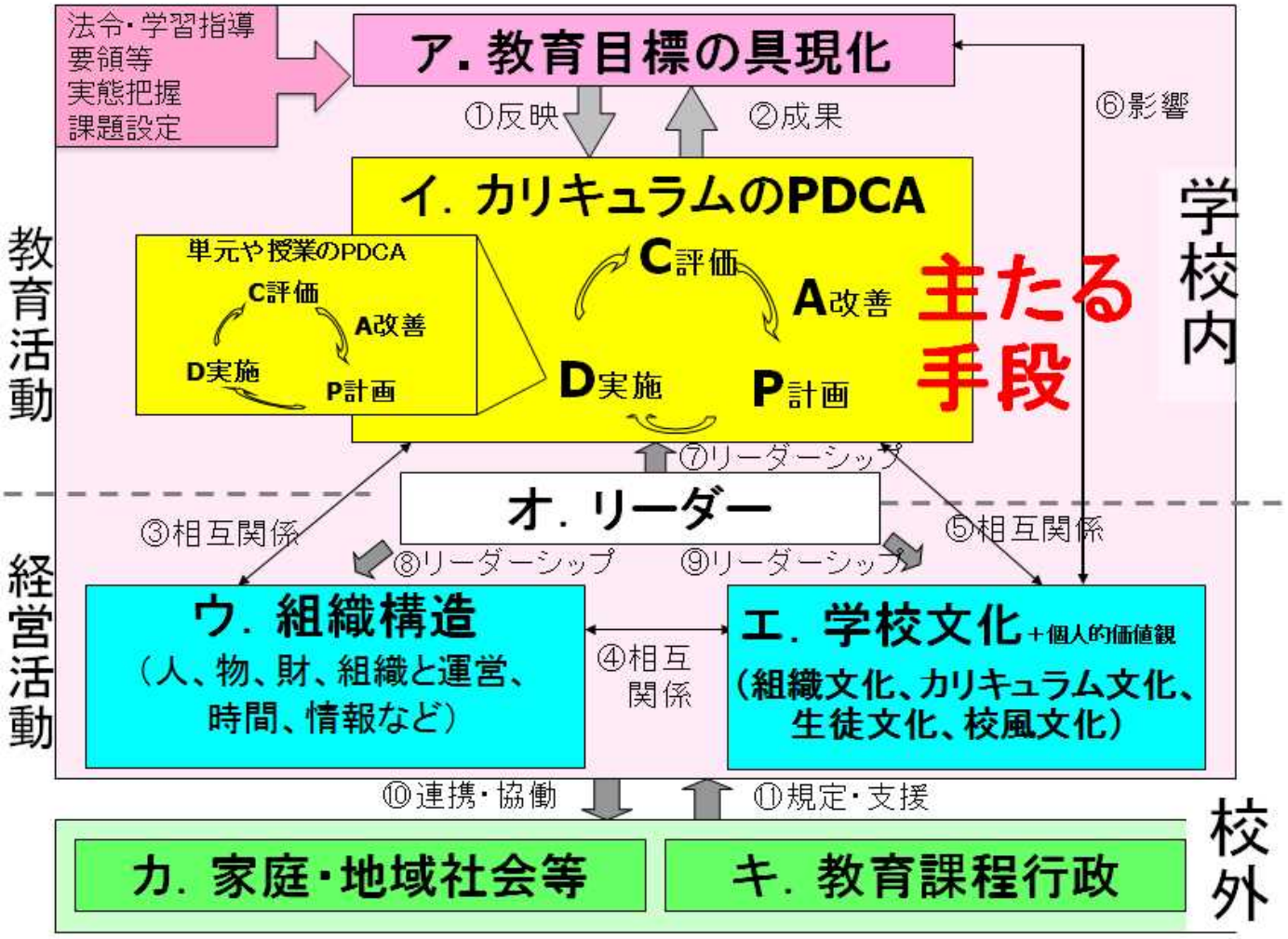
＜外部環境の例＞
　保護者，地域住民
　関係機関，公的機関，他の学校
　卒業生，同窓会
　産業
　自然，風土，歴史，文化　　等

	内部環境	外部環境
プラス面	**S** ・生徒が素直で，教職員との信頼関係が構築されている。 ・主要主任が役割を理解し，適時適切に指導・助言を行っている。 ・生徒による授業評価を実施し，各教員が授業改善に生かしている。	**O** ・キャリア教育を地域と連携して行ってきたことにより，地域住民の学校に対する関心が高まっている。 ・地域の染物業は伝統的な産業であり，生徒が地域を学ぶ教材として活用できる。
マイナス面	**W** ・教科部会が十分に機能しておらず，教師個々の取組のよさや成果が全体に広がらない。 ・生徒は授業には真面目に取り組んでいるものの，受身的。 ・目指す授業像を教師と生徒が共有できていない。	**T** ・学校に対する保護者の関心が二極化しており，参観授業や懇談会に参加する保護者が固定化してきている。 ・小学校との連携が不足しており，12年間を見通した子供の育成が必要。

　SWOT分析の結果をカリキュラム・マネジメントの充実につなげるには，まず，上記のような分析を基に，ブレインストーミングやKJ法等を使って教職員全員で課題の解決策の検討をしていきます。
　このときに重要なのは，プラス部分に着目することです。強みを生かす取組を考えていくようにすることが重要です。
　さらに，出された解決策を，効果の大きさや着手の容易さなどから比較し，**「より着手が容易で効果が大きいと考えられる実行策」**を決めていきます。

【例2】「カリキュラムマネジメント・モデル」を活用した分析

以下は，大阪教育大学の田村知子教授が開発した「カリキュラムマネジメント・モデル」です。このモデル図を活用することでカリキュラム・マネジメントの全体像を把握し，各要素とそのつながりを俯瞰的に分析することにより，比較的小さな力で大きな効果を得やすいポイントを探ることができます。



＜確認ポイント＞

（要素ア）教育目標の具現化

・キャッチフレーズとして掲げておくのではなく「育成を目指す資質・能力」として明確にし，教職員，子供，保護者，地域の関係者等と共有し，その達成を目指す。

（要素ウ）

・管理職だけでなく，授業に必要な人・物・予算・組織などの必要性を切実に感じる授業者も主体的に考える。

（要素オ）

・リーダーシップには，授業研究の際に指導・助言するなど直接的に教育活動に働きかける教育的リーダーシップ（矢印⑦）もあれば，人的・物的環境を整備することで間接的に教育活動を支援する管理・技術的リーダーシップ（矢印⑧）や学校内の人間関係や校風をポジティブなものに変えることで教育活動を活性化する文化的リーダーシップ（矢印⑨）もある。

〔カリキュラムマネジメント・モデルを使った分析例〕

○学力調査等の結果を見ると，二極化傾向が見られる
▲自分の思いや考えを伝えることが苦手な生徒が多い

ア．教育目標の設定・共有化

【学校の教育目標】
地域や他者とのつながりを大切しながら，自ら考え，行動できる生徒の育成
○前年度の評価から得た課題を基に校長が重点目標を示す
▲教育目標の具現化に向けて育成を目指す資質・能力の共通理解は不十分

イ．カリキュラムのPDCA

PDCAサイクル
教育課程の実施状況を評価して，その改善を図っていくこと。

○年2回の学力向上会議で改善策を協議
○年3回の生徒・教員アンケートの実施と分析
▲アンケート結果等を生かしきれていない
▲授業研や互見授業の成果や課題が共有化されていない

C 評価
A 改善
D 実施
P 計画

○新大分スタンダードの推進
・自分の考えを持つ場，交流する場の確保
○授業観察シートによる自己評価
→授業改善に繋ぐ
▲交流の視点が不明確で深まりがない

○学校評価の4点セットや授業改善5点セットと研究テーマの連動
○総合的な学習の時間を核とした教育課程の編成

オ．リーダーシップ（校長・教頭・教務主任・研究主任など）

○各種会議で周知徹底を図るための工夫（説明資料の工夫等）
○主要主任の活用

ウ．組織構造

○ミドルリーダーが若手を指導
○国研の指定校（総合的な学習の時間の研究）
▲個々がもつ分掌が多く，限られた時間の有効活用が必要

エ．学校文化

○教師間のコミュニケーションが円滑
▲新たな取組に対する不安や多忙感

学校外

カ．家庭・地域社会等（他校・企業等）

○地域の協力（総合等）
○学校への信頼度

キ．教育課程行政（教育委員会等）

○研究発表会への協力

内外リソースの活用
教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともに，その改善を図っていくこと。

ポイント3

教育課程の編成

【学習指導要領解説　総則編　第３章第２節１】

・学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ，各学校の教育目標を明確にする。
・各学校の教育目標の実現を目指して，指導内容を選択し，組織し，それに必要な授業時数を定めて編成する。
・言語能力，情報活用能力，問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や，現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を，教科等横断的な視点に立って育成する。
・学校の教育目標と総合的な学習の時間とのつながりを検討する。

（中央教育審議会　教育課程部会　生活・総合的な学習の時間　ワーキンググループ資料参照）

上の図に示されているように，学校の教育目標を実現するため，日々の授業等の位置付けを意識することが重要です。

つまり，管理職のみならず，全ての教職員がカリキュラム・マネジメントの必要性を理解し，**日々の授業等やそれぞれの校務分掌の意義を学校の教育目標の実現という視点から捉え直す**ことが必要です。

それにより，日々の教育実践が，学校の教育目標の実現をより意識したものとなり，子供たちの資質・能力の確実な育成へとつながります。

ポイント4

教育課程の実施

【中央教育審議会答申　第7章　2】

○「主体的・対話的で深い学び」の実現とは，（中略）「学び」という営みの本質を捉えながら，教員が教えることにしっかりと関わり，子供たちに求められる資質・能力を育むために必要な学びの在り方を絶え間なく考え，授業の工夫・改善を重ねていくこと。

○子供たちが，各教科等の学びの過程の中で，身に付けた資質・能力の三つの柱を活用・発揮しながら物事を捉え思考することを通じて，資質・能力がさらに伸ばされたり，新たな資質・能力が育まれたりしていくことが重要。

○教員は，この中で，教える場面と，子供たちに思考・判断・表現させる場面を効果的に設計し関連させながら指導していくことが求められる。

「主体的・対話的で深い学び」の実現の授業改善の取組は，授業の方法や技術のみを意図するものではありません。児童生徒に求められる資質・能力を育むために，以下の三つの視点に立った授業改善を行うことが示されています。

ただし，毎時間この視点を入れ込むと授業が窮屈になってしまいます。単元や題材など，内容や時間のまとまりを見通して計画する必要があります。

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心をもち，自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら見通しをもって粘り強く取り組み，自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

【対話的な学び】

子供同士の協働，教職員や地域の人との対話，先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ，自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で，各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら，知識を相互に関連付けてより深く理解したり，情報を精査して考えを形成したり，問題を見いだして解決策を考えたり，思いや考えを基に創造したりすること等に向かう「深い学び」が実現できているか。

ポイント5

教育課程の評価・改善

実施中の教育課程を検討し評価して，その改善点を明確にした上で改善を図っていくことが大切です。そのためには，教育課程の巻末に評価シートを付けたり学校評価の項目に位置付けたりすることが必要です。

「短期」と「長期」の二つのPDCAサイクルによる評価・改善

児童生徒の実態や地域の実情，指導内容を踏まえて効果的な年間指導計画の在り方や，授業時間，週時程の在り方について研究することも重要です。

H30.3　大分県教育委員会発行 「新大分スタンダードのすすめ」（第2版）より

学校評価との関連付け

【学習指導要領解説　総則編　第３章第５節１】

各学校が行う学校評価については，教育課程の編成，実施，改善が教育活動や学校運営の中核となることを踏まえ，カリキュラム・マネジメントと関連付けながら実施するよう留意するものとする。

※文部科学省作成「学校評価ガイドライン」（平成28年改訂）には，評価項目・指標等の設定の例として以下のような項目が示されています。

■教育課程・学習指導
- 教育課程の編成・実施の考え方についての教職員間の共通理解の状況
- 児童生徒の学力・体力の状況を把握し，それを踏まえた取組状況
- 児童生徒の学習について観点別学習状況の評価や評定などの状況
- 学校図書館の計画的利用や，読書活動の推進の取組状況
- 体験活動，学校行事などの管理・実施体制の状況　など

【実践編】

１　全体計画
　～教育目標を踏まえ，つなぐグランドデザイン～

２　カリキュラム・マネジメントの充実による教育目標の実現

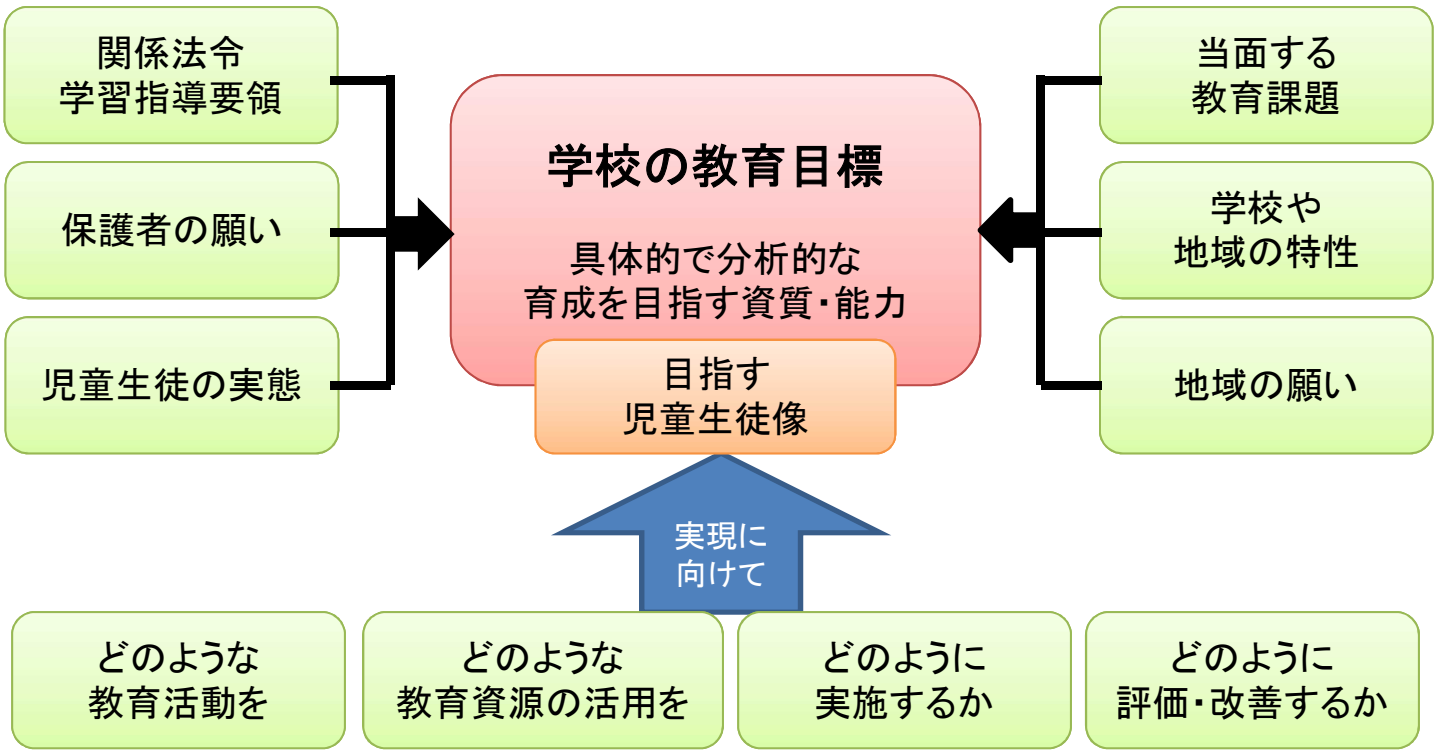
３　カリキュラム・マネジメントと主体的・対話的で深い学び

４　総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメント

1　全体計画～教育目標を踏まえ，つなぐグランドデザイン～

【第1章第2の1】
　教育課程の編成に当たっては，学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ，各学校の教育目標を明確にするとともに，教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。その際，第5章（中は第4章）総合的な学習の時間の第2の1に基づき定められる目標との関連を図るものとする。

グランドデザインのイメージ



　各学校で設定する教育目標やその実現を目指す教育課程の編成についての基本方針は，「社会に開かれた教育課程」の理念に基づいて，家庭や地域と共有するとともに，連携・協働のもと，教育活動を充実させていくことが重要です。
　そのために，例えば，学校経営方針やグランドデザイン等の策定や公表を行うことも求められています。

中津市立山口小学校の取組を紹介します。

1　全体計画～教育目標を踏まえ，つなぐグランドデザイン～ ＜中津市立山口小学校＞

【平成29年度の学校の教育目標等】

学ぶ力　＋　豊かな心　＋　たくましさ　＝　人間力（総合力）

【知】学ぶ力＝基礎基本の定着　活用する力と資質・能力の育成
【徳】豊かな心＝命を大切　差別を見抜く　問題を集団解決　平和的・共感的人間関係
　　あいさつ　感動体験　情操教育　道徳心・公共心
【体】たくましさ＝体力向上　挑戦意欲　忍耐力　達成感　自尊感情

☆人間力（総合力）＝変化の激しい将来を生き抜く力。答えのないような問題に答えを出す力等

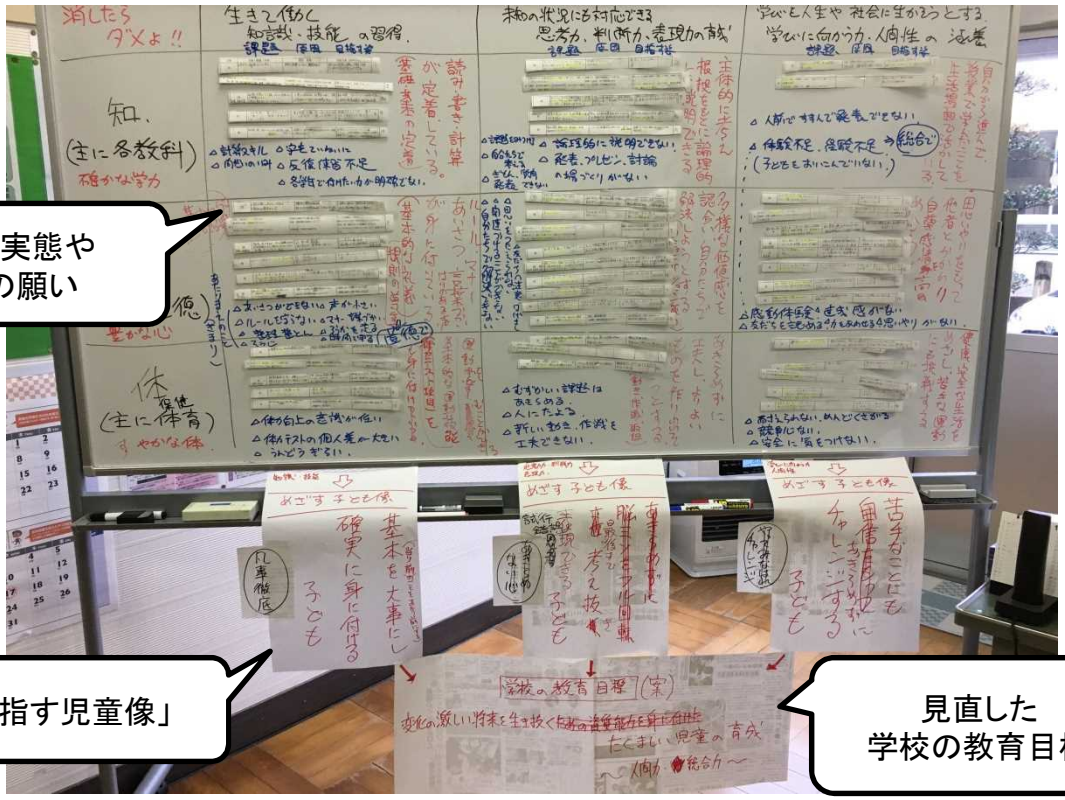
経営の基本理念「授業改善」と「組織力」
〇公教育の使命を自覚し，保護者・地域社会の信託に応える。
〇常に，学ぶ主体である児童の立場・成長を考えた授業と教育活動に努力する。
〇一人一人が仕事に責任を持ち，主体的に協働し問題解決にあたる学校組織とする。

目指す学校像
・授業を大事にする学校
・地域に信頼される開かれた学校
・児童が安心して学べる学校

目指す児童像
・自ら考え判断し実行する子
・人の気持ちを大事にする子
・進んで運動に親しむ子

目指す教師像
・努力を惜しまない教職員
・本気で関わる心温かい教職員
・児童　保護者　地域に耳を傾け
　共感できる教職員

中津市立山口小学校では，29年の2学期終了までに，校長のリーダーシップのもと，全教職員で「目指す児童像」を明らかにするワークショップを行い，学校の教育目標の見直しを行いました。



1　全体計画～教育目標を踏まえ，つなぐグランドデザイン～ ＜中津市立山口小学校＞

【平成30年度の学校の教育目標等】

【学校経営の基本方針】
〇日本国憲法，教育基本法，教育関係法令，学習指導要領，および
大分県教育委員会・中津教育事務所・中津市教育委員会の指導方針に基づく。
〇社会の要請，児童の実態，地域の実態，保護者の願い，学校の実情，学校の伝統，教職員の願いを踏まえ，組織的に「新しい時代に必要な資質・能力を育む学校教育」の確立をめざす。

【学校の教育目標】

変化の激しい将来を生き抜く，たくましい子どもの育成
～　人間力・総合力～

【知識・技能】　・基本を大切にし確実に身に付ける子ども　【凡時徹底】
【思考力・判断力・表現力】　・最後まで考え抜き表現できる子ども　【試行錯誤】
【学びに向かう力・人間性】　・苦手なことにもあきらめずにチャレンジする子ども　【挑戦意欲】

資質・能力の三つの柱

	目指す児童像		
	生きて働く知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養
知	読み書き計算が定着している	主体的に考え根拠をもとに論理的に説明できる	自分から進んで授業で学んだことを生活場面で生かす
徳	基本的な生活習慣が身に付いている	多様な価値観を認め自分たちで解決しようとする	思いやりを持って他者と関わり合い自尊感情を高め合う
体	基本的な運動技能を身に付け運動を楽しんでいる	あきらめず工夫し，よりよいものを作り出そうとする	健康・安全な生活をめざし苦手な運動にも挑戦する

山口小学校では，平成29年度の教育活動を評価し，全教職員で子供の実態を整理し，教師の願い等を踏まえるとともに，育成を目指す資質・能力の三つの柱で「めざす子ども像」を具体的に設定しています。
このような作業により，学校の教育目標で目指す子供の姿がカリキュラム全体に貫かれるとともに，各教科と総合的な学習の時間や特別活動が関連していくことにつながります。

山口小学校のホームページアドレスはこちら　http://syou.oita-ed.jp/nakatu/yamaguti/

1　全体計画～教育目標を踏まえ，つなぐグランドデザイン～ ＜佐伯市立明治小学校＞

追加

佐伯市立明治小学校では，全教職員が参加して学校の教育目標を資質･能力の三つの柱で整理するワークショップを行いました。

学校教育目標を「育成を目指す資質・能力の三本柱」で整理する

2019/06/28（教務・武田）

【学校教育目標】ふるさとを愛し、豊かな心と自ら学ぶ意欲をもち、たくましく生きる子どもの育成　　気づき、考え、行動する

	知 ・学びに向かう力の育成 ・確かな学力 ・かしこい子	徳 ・仲間を思いやり、協働できる力の育成 ・思いやりと感謝の心 ・やさしい子	体 ・粘り強く努力できる力の育成 ・たくましい気力、体力 ・たくましい子
生きて働く知識及び技能の習得	○望ましい学習習慣と基礎・基本の学力を身に付けた子 ○学習内容を他の学習や生活の場面で活用できる子	○時と場に応じた言動ができる子 （あいさつ、返事、言葉遣い、かたづけ、マナーやルール等）	○基本的な生活習慣を身に付けた子 （早ね、早おき、朝ごはん、ノーメディアデー等）
未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成	○自分の思いや考えをもち、自信をもって表現できる子	○互いの考えを伝え合う子 ○比較、分類、関連付け、理由付けなどして考えることができる子	○危機回避能力を身に付けた子（状況に応じた判断力・行動力）
学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性等の涵養	○自ら課題を見付け、学びに向かうことができる子	○様々な課題に協力しながら取り組む子 ○地域のひと・もの・ことつながる子	○自ら挑戦し、粘り強く取り組むことができる子

育成を目指す子どもの姿
明治小学校が育てたい「具体的な子どもの姿」

○基本的な学習習慣や生活習慣及び基礎・基本の学力を身に付けた子ども
○学習内容を他の学習や生活の場面で活用できる子ども
○時と場に応じた言動ができる子ども
【キーワード】基礎・基本（生活面・学習面・学力）、学習内容を活用、時と場に応じた言動

○自分の思いや考えをもち、自信を持って表現できる子ども
○互いの考えを伝え合う子ども
○比較、分類、関連付け、理由付けなどして考えることができる子ども
○危機回避能力を身に付けた子ども
【キーワード】自分の考え、自信、表現力、伝え合う、危機回避能力

○自ら課題を見つけ、解決していこうとする子ども
○様々な課題に仲間と協働しながら取り組む子ども
○自ら挑戦し、粘り強く取り組む子ども
○地域の人・もの・こととつながる子ども
【キーワード】自ら学ぶ、協働、挑戦、粘り強さ、地域とつながる

【４月２週目に出し合った明治小の子どもの課題】
主体性、挑戦、自尊感情、自信

A：「グランドデザインの中のめざす子どもの姿」から
B：「学校経営方針」から
C：AにもBにも入っていないが必要だと思うもの

明治小学校グランドデザイン

明治小学校学校経営方針

学習指導要領

学習指導要領解説総則編

など

４月に出し合った子どもの実態を踏まえ，ワークショップ前に教務主任が「グランドデザイン」や「学校経営方針」，学習指導要領等から「明治小学校として目指す子どもの姿」を洗い出して上記資料を作成しています。

この後，全教職員で次のページの写真のようなワークショップを行いました。

1　全体計画～教育目標を踏まえ，つなぐグランドデザイン～ ＜佐伯市立明治小学校＞

追加

マトリックス（写真左）で整理・分析して浮かび上がったキーワードから，写真右のような「目指す子どもの姿」を描き出しています。

【７月２４日　校内研修】

生きて働く知識及び技能の習得	基礎・基本（生活面・学習面・学力）
未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成	自分の思いや考えをもつ（書く力・話す力） 自信をもって表現する 互いの考えを伝え合う（話し合う力）
学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力，人間性等の涵養	互いを認め合える子（仲間づくり・生徒指導の３機能） 課題に向かって粘り強く挑戦できる子 （自ら課題を見つけて）

1　全体計画～教育目標を踏まえ，つなぐグランドデザイン～ ＜佐伯市立明治小学校＞

追加

全教職員によるワークショップの結果を踏まえて，「明治小学校が目指す子どもの姿」とその実現のための授業改善の方向性を整理しました。

	育成を目指す子どもの姿 明治小学校が育てたい「具体的な子どもの姿」	◆授業改善の方向性（具体的な取組） 生徒指導の３機能を意識した問題解決的な展開の授業づくり
生きて働く知識及び技能の習得	○基礎・基本の力を身に付けた子ども （生活面、学習面、学力）	（１）「めあて・課題・まとめ・振り返り」の適切な設定と板書の構造化 ①学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」 ②追究すべき事柄を明確にする「課題」 「新大分スタンダードのすすめ（平成31年3月版）」参照 ③学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」 ＊振り返りの重視・・・文字言語にて熟考 ア　学習内容を確認する振り返り＝（追究した結果を明確にする「まとめ」） イ　学習内容を現在や過去の学習内容と関係付けたり、一般化したりする振り返り ウ　学習内容を自らとつなげ、自己変容を自覚する振り返り
未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成	○自分の思いや考えをもち、自信をもって表現するとともに、互いに伝え合う子ども ＊思いや考えを書いて表現することを重視する。	④板書の構造化 ○思考を整理したり促したりする板書→「互いの考えを伝え合う」ために効果的 ○思考の過程を振り返ることができる板書→「振り返り」に効果的 （２）単元構成の工夫（国語科「書く」領域との関連を図る） ○体験活動と表現活動をつなぐ
学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性等の涵養	○互いを認め合える子ども ○自ら課題を見付け、その課題に向かって粘り強く挑戦できる子ども	（３）「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り ①評価規準（付けたい力）を確認したり設定したりして授業を行っている。 ②評価規準に基づいて、子どもの状況を見取るための工夫や努力をしている ③「C努力を要する状況」の子どもに手立てを講じている。 （４）生徒指導の３機能（人権尊重の３視点）を意識した学習展開 ①自己存在感を持たせる場を設定した授業を行っている。 自分の考えを書いたり話したりして、みんなの前に示す支援の工夫がある。 ②共感的な人間関係を育む場を設定した授業を行っている。 友達の発言のよさに気付くと共に、 互いの考えを交流し、互いのよさに学び合う場の工夫がある。 ③自己選択・決定の場を設定した授業を行っている。 自分の考えを持たせる場の工夫がある。 また、学習成果のまとめ方を自分で選択・決定できる場の工夫がある。

自分の授業を見つめてみよう！

「授業づくり」と「仲間づくり」

【体験活動と表現活動をつなごう！】
◆体験活動を取り入れた（意識した）単元構成を！
◆体験活動と表現活動の繰り返し
◆体験したことを「言葉」にして、体験を「意味付ける」「価値付ける」
＊学習内容を現在や過去の学習内容と関係付けたり、一般化したりする振り返り
＊学習内容を自らとつなげ、自己変容を自覚する振り返り

【引用・参考文献】
○大分県教育委員会
「新大分スタンダードのすすめ」
「人権の『授業づくり』のすすめかた」
○　田村学『深い学び』（東洋館出版社）

目指す子どもの姿と授業改善の方向性（具体的な取組）を関連付けて整理してみると・・・
（1）「めあて・課題・まとめ・振り返り」の適切な設定と板書の構造化
（2）単元構成の工夫（国語科「書く」領域との関連を図る→今年度の重点）
（3）「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
（4）生徒指導の3機能（人権尊重の3視点）を意識した授業展開

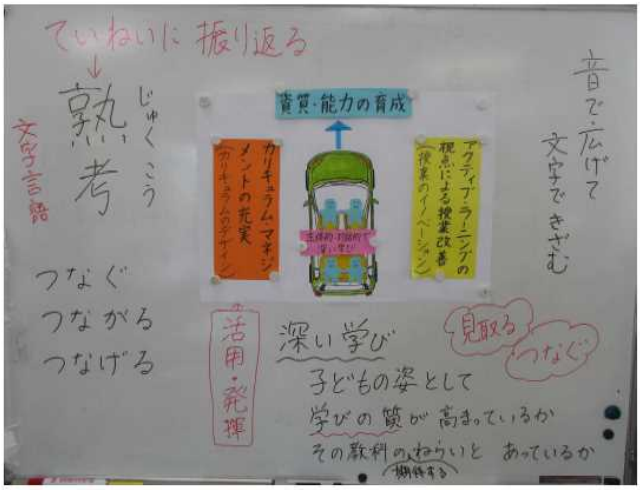
となり，大分県教育委員会が示している「新大分スタンダード」とぴったり重なりました。

1　全体計画～教育目標を踏まえ，つなぐグランドデザイン～ ＜佐伯市立明治小学校＞

追加

「目指す子どもの姿」を実現するために，「新大分スタンダード」が必要である，ということが確認できました。

7月24日
独立行政法人教職員支援機構
「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けて（NO 25）」を視聴・活用して研修



～「新大分スタンダードのすすめ（平成31年3月版）」より～

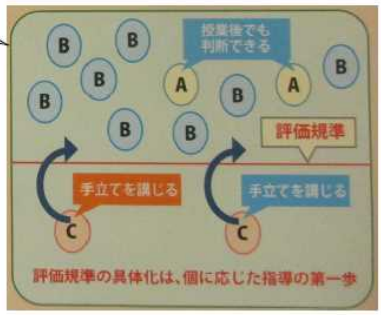
【授業づくりのポイント1】
「めあて・課題・まとめ・振り返り」の適切な設定と板書の構造化」

めあて	付けたい力を身に付けさせるための、本時で目指す「活動のゴールの姿」や「ゴールとそれまでの道筋」。 単元（題材）の「めあて」を提示することもある。
課　題	その時間に解決すべき事柄。 「なぜ～なのか」「～することはできるだろうか」「どうしたら～できるか」など、疑問形で示すことが多い。
まとめ	本時の課題に対する答え・結論に当たる。
振り返り	めあてに対する振り返り。 学びの成果を実感させ、学んだことや意欲・問題意識等が次につなげられるよう視点を設定することが望ましい。

※「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の4つが毎時間の授業で必要だというわけではない。

～「新大分スタンダード（平成28年3月版）」より～

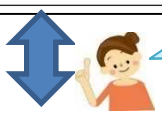
評価規準の具体化は、個に応じた指導の第一歩です！



○1単位時間の評価規準を具体的に設定することで、児童生徒に提示する（あるいは児童生徒と作り上げる）「めあて」も具体的にすることができ、学習の見通しをもたせることができます。

○評価規準を児童生徒の具体的な姿で設定すれば、1単位時間の評価も短時間で的確に行うことができます。

○評価規準に照らし合わせて「C　努力を要する状況」の児童生徒をまず見出し、できるだけ1単位時間の中で手立てを講じ、「B　おおむね満足できる状況」にすることが大切です。



前ページの内容とあわせて、
関連が深いことが確認できます。

新大分スタンダードのすすめ

新大分スタンダードで主体的・対話的で深い学びの実現を

「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」を育成するワンランク上の授業を目指して

1　1時間完結型

主体的な学びを促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」

*学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
*学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
*追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

2　板書の構造化

*思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書

3　習熟の程度に応じた指導

*「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
*「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫

安心して学べる
「学びに向かう学習集団」

4　生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を創造する学習展開

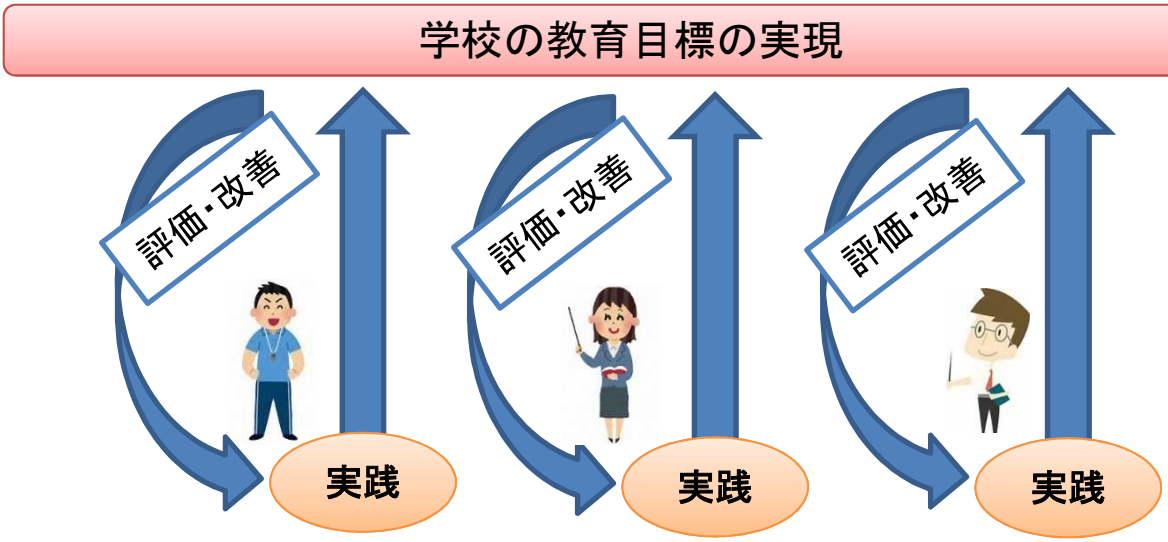
*各教科等の見方・考え方を働かせて展開する「課題設定 ➡ 情報収集 ➡ 整理・分析 ➡ まとめ・表現・交流 ➡ 振り返り・評価」等の学習過程の繰り返しの中で行われる
・知識の関連付け、問題の発見・解決、情報を精査した考えの形成、思いや考えに基づく創造
・様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・拡充

H31.3月版

1　全体計画～教育目標を踏まえ，つなぐグランドデザイン～

今回の改訂では，各教科等において，当該教科等の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかが，「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」，「学びに向かう力，人間性等」の三つの柱に沿って再整理され，当該教科等の目標及び内容も明確にされています。

各学校においては，教育目標に照らしながら各教科等の授業のねらいを改善したり，教育課程の実施状況を評価したりすることが可能となるよう，各学校が設定する教育目標は具体性を有するものであることが求められます。



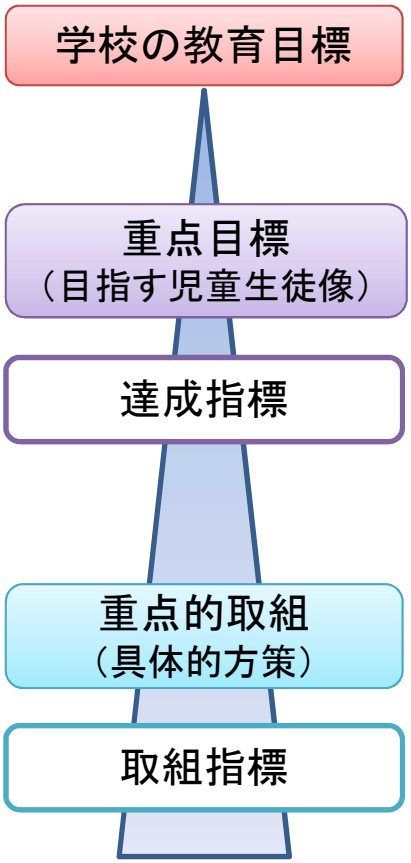
山口小学校の取組は，授業者である先生方が，自身の日々実施する実践と，学校として育成を目指す資質・能力の結び付きを明確にする上でとても効果的です。

大切なのは，全ての先生方が，学校の教育目標の実現を意識して実践を行うとともに，子供たちに確実に資質・能力を身に付けさせることです。

次に，学校の教育目標の設定の際に求められる，「学校マネジメントの四つの観点との整合性」について説明します。

学校の教育目標の設定と学校マネジメントの四つの観点

大分県教育委員会が策定した「『芯の通った学校組織』推進プラン第2ステージ」で示したように，子供たちの実態や地域のニーズ，時代の要請に見合った学校の教育目標を掲げ，学校の喫緊の課題を踏まえた具体的な重点目標や取組を設定し，実践すること，取組の検証と成果の実感の上に次なる課題を特定し，更なる取組につなげていくという検証・改善を繰り返し，持続的・発展的な教育活動を実現することが大切です。



○学校の教育目標の実現に向け，教職員一人一人がどのような教育活動を展開していくかを考えて，実践をしていくことが求められています。

○学校の教育目標の実現に向けて，学校として育成を目指す資質・能力や取り組むべき課題などを具体化・焦点化した「重点目標」を立て，それに迫る具体的な内容である「重点的取組」を検討していきます。

○学習評価については，カリキュラム・マネジメントの中で，学校の教育目標や学習・指導方法の評価と結び付け，子供たちの学びに関わる学習評価の改善を，教育課程や学習・指導の改善に発展させ，授業改善及び組織運営の改善に向けた学校教育全体のサイクルに位置付けていくことが必要です。

こんなことはありませんか？

▲学校の教育目標の見直しが不十分
（知・徳・体の学校の教育目標のみで，学校として育成を目指す資質・能力が教職員間で共有されていない）
→各教科等で身に付ける資質・能力と学校として育成を目指す資質・能力のつながりが分かりにくい。
→教科等横断的な視点で児童生徒に資質・能力を育成する視点がもちにくい。

▲学校の教育目標と重点目標や重点的取組の整合がとれていない。
（例）学校の教育目標に「自ら考え～主体的に判断し～」とあるが，重点的取組はドリルを活用した基礎・基本の習得となっている。

1　全体計画～教育目標を踏まえ，つなぐグランドデザイン～

以下は，佐伯市立鶴谷中学校のグランドデザインです。
学校の教育目標の達成に向けた経営方針の重点目標を，「知識・技能の確かな習得」「思考力・判断力・表現力の育成」「地域とともに学びに向かう力の涵養」の三つの柱で整理しています。また，ここには記していませんが，それぞれの取組に対する達成指標や取組指標も明確に設定されています。ぜひ，参考にしてください。

重点的取組（一部抜粋）

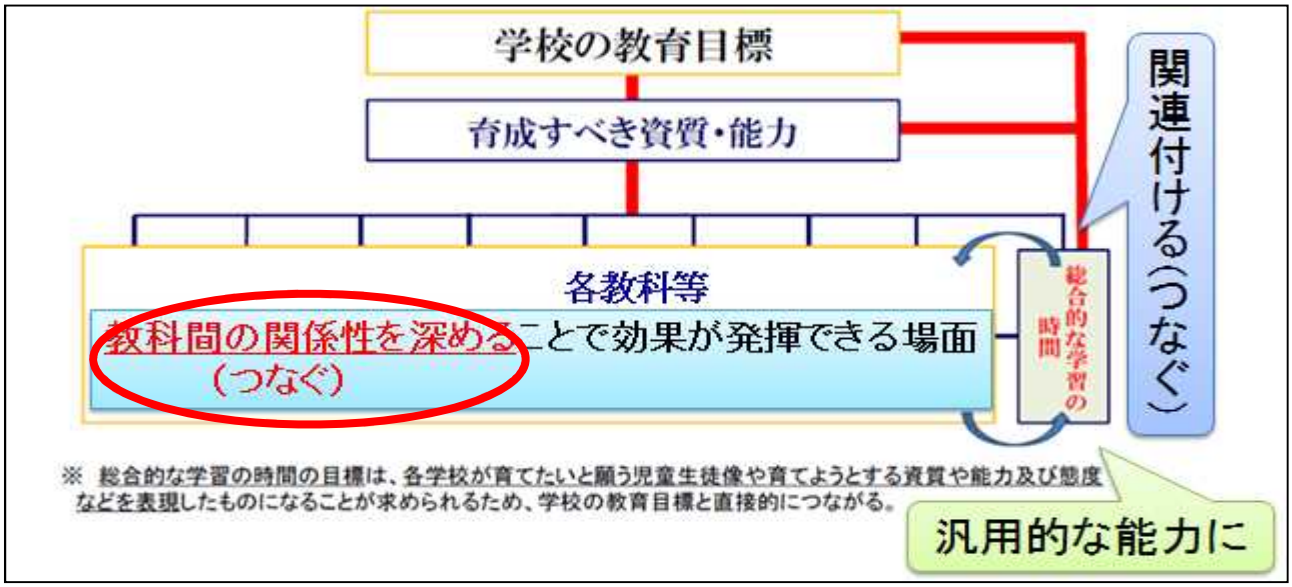
①授業で学ぶ知識・技能の確かな習得	②学んだ知識・技能を活用した思考力・判断力・表現力の育成	③地域とともに学びに向かう力や人間性の涵養
☆学習規律・学習習慣の徹底 ☆知識・技能が身に付く教科学習の充実 ☆健康・体力づくりの推進	☆教科学習とリンクした総合的な学習の時間の充実 ☆自尊感情をもち，自己決定する自立する心の育成 ☆互いのよさと違いを認めつつ，協力する態度の育成	☆心が通い芯の通ったチームでの実践の日常化（同僚性の発揮） ☆ふるさと佐伯のよさを知り，自信と誇りをもって地域とかかわり貢献する態度の育成 ☆積極的な情報発信と情に沿った丁寧な説明 ☆校区CS（１年目）の組織体制の確立と取組の熟議

鶴谷中学校のホームページアドレスはこちら　http://tyu.oita-ed.jp/saiki/turuya/

2　カリキュラム・マネジメントの充実による教育目標の実現

ここからは，「カリキュラム・マネジメントの充実による教育目標の実現」について考えていきます。

以下の図は，11ページの再掲ですが，ここでは「教科等間の関係性を深める」視点がポイントになります。



※P11　再掲

H30年度
教育課程

〇〇小学校

各学校で作成する教育課程は，「全体として児童生徒の経験の発展を目指すものであるから，**教科等間の連関を十分に考慮**し，**学習内容の重複を避け**，有効で能率的な組織ができるように計画しなければならない」とされています。

学校の教育目標の達成に向け，どのような教育活動を，どのような教育資源を活用しながら，どのように実施していくのか。
→各教科等で行われる一つ一つの単元が，1年間でどのように実施されるのかを俯瞰的に関連付ける単元配列表の活用が考えられます。

単元配列表の例

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	見えないだけ アイスプラネット 要点を整理して聞き取ろう	枕草子 多様な方法で情報を集めよう 「職業ガイドを作る」	生物が記憶する科学 説明の仕方を工夫しよう 魅力的な提案をしよう	新しい短歌のために 言葉を比べよう 文法①自立語 読書生活を豊かに	盆土産 字のないはがき 推敲して適切な文章に直す	モアイは語る－地球の未来－ 敬語 平家物語 徒然草	君は「最後の晩餐」を知っているか 話し合って考えを広げよう	意見文を書く 薄葉松 文法⑤用言の活用 臨時災害放送局「りんごラジオ」	走れメロス 表現の仕方を工夫して書こう 文法⑥付属語	方言と共通語 科学はあなたの中にある	1年間の学びを振り返ろう 「報告書をまとめる」 鏡
社会	日本の様々な地域 日本の姿	世界から見た日本の姿 世界から見た日本の 自然環境・人口	世界から見た日本の姿 資源・エネルギーと産業 近世の日本	江戸幕府の成立と鎖国 産業の発達と幕府政治の動き	日本の諸地域 九州地方	日本の諸地域 中国・四国地方	日本の諸地域 近畿地方 中部地方 関東地方	日本の諸地域 東北地方 北海道地方 身近な地域の調査	開国と近代日本の歩み 日本の開国 明治維新	日清・日露戦争と近代産業	
数学	式の計算 式の利用	連立方程式 連立方程式の活用		一次関数 方程式と一次関数		図形の性質の調べ方 平行線と多角形 図形の合同		三角形 四角形		確率	
理科	化学変化と分子・原子 物質の成り立ち	いろいろな化学変化	化学変化と物質の質量 化学変化と熱の出入り	動物の生活と連化 細胞のつくりとはたらき 生命を維持するはたらき	行動のしくみ	酸素のはたらきをしらべよう	電流とその利用 電流と回路	電流と磁界	電流と正体	気象の仕組みと天気の変化 気象観測	大気中の水蒸気の変化 前線の通過と天気の変化
音楽	歌声をみがこう	合唱の響きを楽しもう		楽器の特徴を生かして表現しよう		曲の仕組みを理解して聴こう	オペラの名曲を味わおう	日本の楽曲に親しもう	心の歌	合唱の喜び	
美術	自然の恵み 多様な表現を求めて	身近な人を見つめて		映像表現の広がり	豊かなイメージで伝えよう	日本の美 日本の伝統色		光の表現・光の演出	現代に生きる	伝えよう大切なこと	楽しく効果的に表そう
保健体育	体つくり運動 環境の変化と適応	陸上競技 水の役割と飲料水の確保 生活排水の処理		水泳 理論	ダンス ごみの処理 環境の汚染と保全	球技 障害の原因と防止 交通事故の防止 犯罪被害の防止	武道 自然災害に備えて	長距離走	球技 応急処置の意義と基本	球技 きずの手当	球技
技術	生物育成に関する技術 生物の育成環境		作物の栽培 育成計画を立てる	エネルギー変換に関する技術 変換機器のしくみ	エネルギー変換に関する技術 変換方法と利用	エネルギー変換に関する技術 動力伝達の方法と利	機器の基本的な仕組みと事故防止	エネルギー変換に関する技術を利用した作品の製作		情報に関する技術 情報通信ネットワークの利用	ネットワークと情報セキュリティ
家庭	食生活と自立 健康と食生活		食品の選択と保存	調理の計画	調理をしよう			地域の食材と食文化	身近な消費生活と環境	商品の選択と購入	よりよい消費
英語	一般動詞の過去形	be動詞の過去形 過去進行形 条件や仮定を表す	未来形 接続詞	世界の天気予報 must	There is(are) 動名詞 We have to	give + A + B	許可 May I ～？	不定詞 依頼する表現	比較級 最上級 同等比較	受動態 プレゼンテーション	It's too～
総合	自己のあり方を探る 地域で生きる	未来の自分への一歩 職業調べ 職場体験学習				日本の歴史と文化を知ろう 修学旅行のしおりの作成 文化祭で調べたことを発信しよう				ふるさとの伝統文化に触れよう	
道徳	よりよい自己の追求 育みあう友情	望ましい生活習慣 自然への畏敬の念	社会秩序を高めるとともに生きる社会 家族愛	誠実な心 責任ある判断	夢や希望 よりよい社会の実現 感謝 正義感	働くことの意義 自然への感動 温かい人間愛	よりよい集団生活 かけがえのない命 国際協力 差別と偏見	社会への奉仕 時と場に応じた礼儀 思いやる心	家族への敬愛 国を愛する心	正しい異性理解 気高く生きる喜び	他を思いやる心 郷土の一員として 未来への一歩

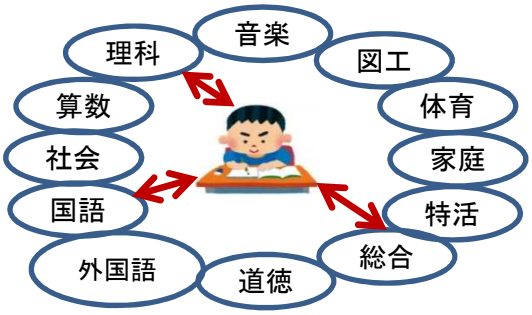
実践者や子供にとっても「学びの地図」となる単元配列表の作成

全体を俯瞰し，関連付ける

①子供の実態・学習経験に配慮する。

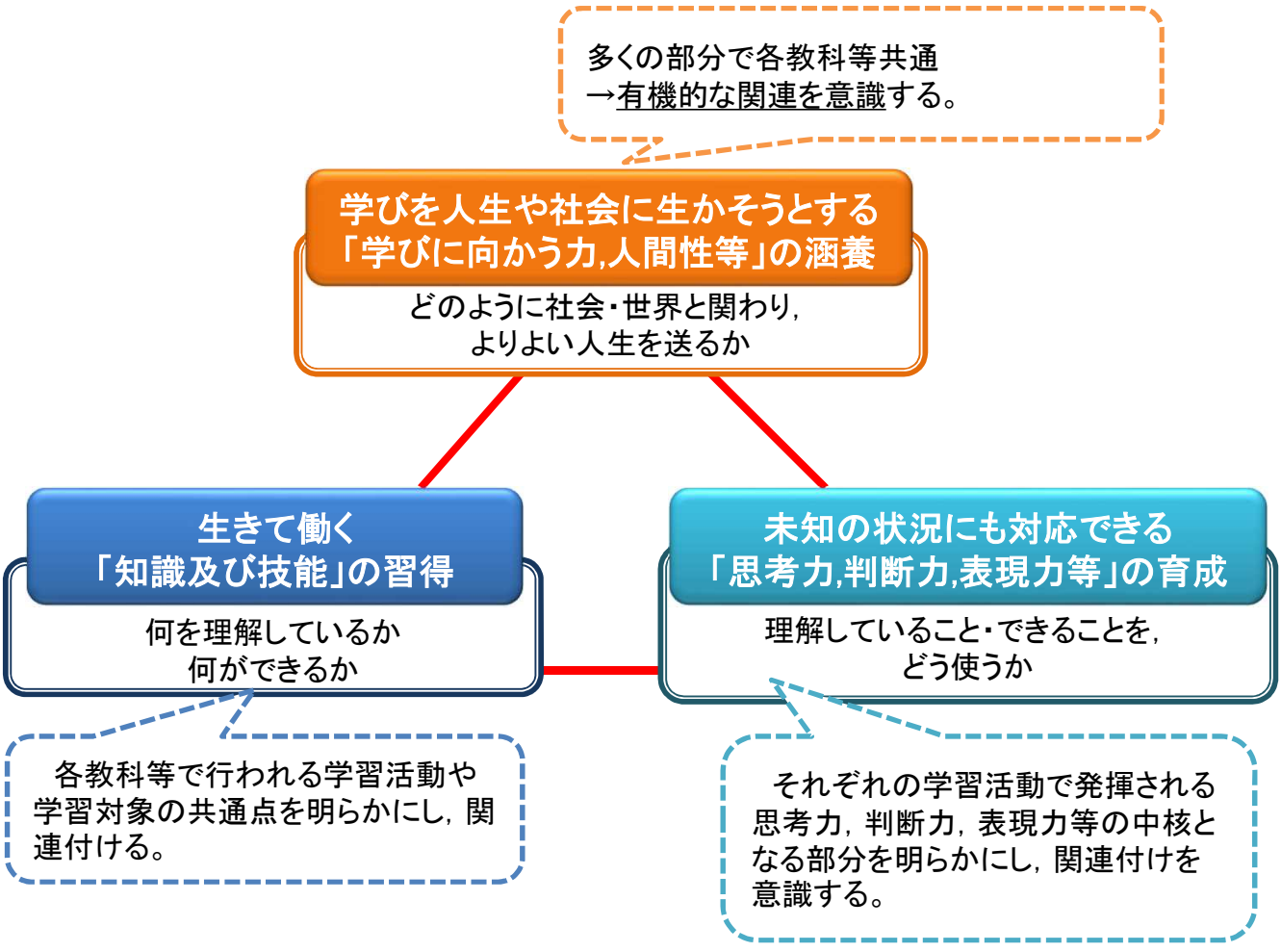
→子供たち一人一人の学びは，個別の教科内に閉じるものではなく，それぞれの学びが相互に関連付き，つながりあっています。子供たちの中で学んだことがどのように関連付いていくのかを意識することが大切です。

（例）国語で学習した話合いの方法を使って，社会の問題を議論する。



②学校の教育目標の実現（育成を目指す資質・能力）をもとにして配列を考える。

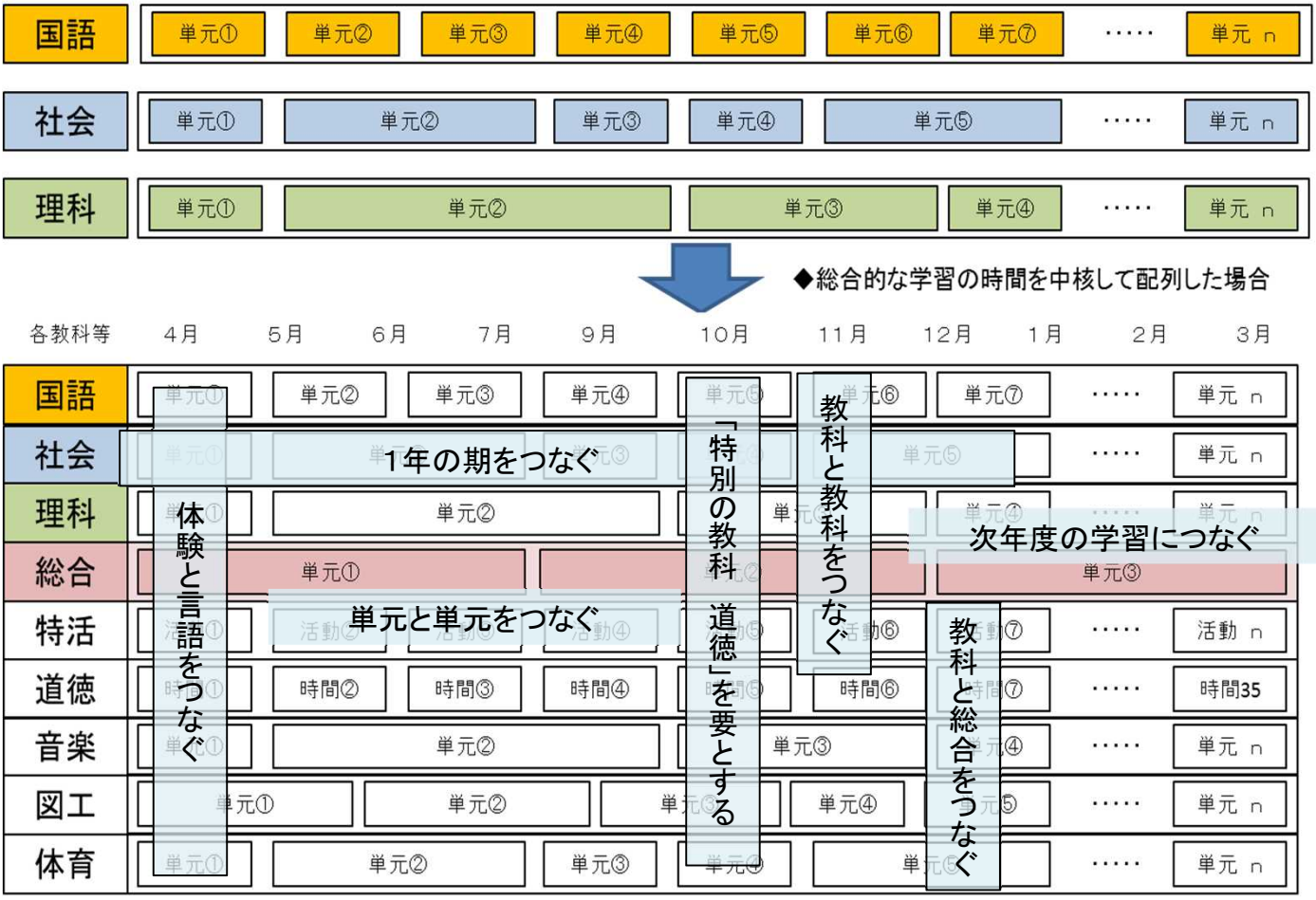
→各教科等で育成される資質・能力がどのようにつながり，関連付いていくのかを想定して配列を考え（改善していき）ます。



2　カリキュラム・マネジメントの充実による教育目標の実現

③総合的な学習の時間との関連を重視（強化）する。

→各教科等で身に付けた資質・能力を適切に活用・発揮して，総合的な学習の時間における探究活動を充実させていく関連の仕方などが考えられます。



（「カリキュラム・マネジメント入門」 田村学　2017.3.1　東洋館出版社）

また，「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには，各教科等の学びが効果的につながることが大切です。各教科等で学ぶ内容や，各教科等で育成される資質・能力，実際に行われる学習活動が，それぞれにどのような関係になっているかを丁寧に整理するとともに，実施の順序や時期を考えることも大切です。

④単元の実施順序に配慮する。

→それぞれの単元で扱う学習内容は，およそ子供の発達に合わせて用意されています。
1年間でどのように学ぶかは，個別の単元の並び方に関わってきます。
（例）「平易→困難」「単純→複雑」「基礎→応用」などの視点で，オリジナルな並び方に調整。

⑤単元の実施時期に配慮する。

→子供の学びは，日常の自然の姿や社会生活の変化とも大きく関わっています。子供の身の回りの環境の変化を視野に入れ，適切に配列することも考えられます。

単元配列表を作成することは，年間指導計画上に存在する各教科等の各単元を，学び手である子供を中心に据えて，効率的かつ有効な学びになるように配列し直すことです。配列し直すに当たっては，「何を視点に」配列するのか，「どのような視点で」配列するのかがポイントになります。

単元配列表作成上の配慮事項

（1）何を視点に単元を配列するのか

◇最大のポイントは，「育成を目指す資質・能力」をもとにして配列を考えることです。各教科等で育成される資質・能力がどのようにつながり，関連付いていくのかを想定して配列を行うことになります。その際，「育成を目指す資質・能力」の三つの柱のそれぞれによって，いくつか心がける点があります。

「知識及び技能」を例に・・・

◇実際に行う学習活動や扱う学習対象に関係しています。
◇各教科等で行われる学習活動や学習対象には，どのような共通点があるのかを明らかにし，関連付けについて細かく検討することが考えられます。
◇各教科等の知識がつながり，関連付くように実施時期を考え単元を配列することによって，学習対象に関する概念の形成が期待できます。

5年理科 ←―― 関連付くように配列する ――→ **5年社会**

5年理科	5年社会
B　生命・地球 (3)流れる水の働きと土地の変化 (ア)流れる水には，土地を侵食したり，石や土などを運搬したり堆積させたりする働きがあること。 (ウ)雨の降り方によって，流れる水の速さや量は変わり，増水により土地の様子が大きく変化する場合があること。	(5)我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について (ア)自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや，自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解すること。

4年理科 ←―― 関連付くように配列する ――→ **4年算数**

4年理科	4年算数
A　物質・エネルギー (2)金属，水，空気と温度 (ア)金属，水及び空気は，温めたり冷やしたりすると，それらの体積が変わるが，その程度には違いがあること。	C　変化と関係 (1)伴って変わる二つの数量 (ア)変化の様子を表や式，折れ線グラフを用いて表したり，変化の特徴を読み取ったりすること。

2　カリキュラム・マネジメントの充実による教育目標の実現

◇例えば，総合的な学習の時間と各教科等の思考力，判断力，表現力等が関連付くよう，下図のように整理する方法も考えられます。

単元名:　　○○川探検隊！～生き物がいる川を大切にしてもらうための取組を進めよう～(小学校第4学年:70時間)

時期	5月～7月	9月～11月	12月～3月
探究の過程	○○川の生き物を元気に育てよう(20時間)	生き物を元気に飼えるように○○川のことをもっと知ろう(20時間)	生き物がいる○○川を大切にしてもらうための取組を進めよう(30時間)
課題設定	【体験活動】 ・○○川に生き物を捕りに行き，学校等で飼育するための環境を整える ◆○○川の生き物を元気に育てよう！ ◆学校や地域のみんなは，○○川の生き物を知っているのかな？	【課題の設定】 ・夏休みの自由研究発表会を行う。 ◆せっかく捕ってきても，生き物が死んでしまう。教室で飼っている生き物を元気に飼うようにするには，どうすればいいのだろう？ ・教室で飼っている生き物をどうすることが幸せなのか調べたり話し合ったりする。	◆生き物がいる川を大切にしてもらうためには，どのような取組を進めればよいだろうか？
情報収集	・○○川の生き物を見たり飼ったりしたことがあるか，学校のみんなに尋ねる。 ・アンケート結果や飼育している生き物の状況から，今後の活動を考える。	・○○川の水は，日にちや時間によってどのように変わっているのか調べる。 ・満潮，干潮のときの水の深さや流れ，水質等について，生き物の生息と関連付けて調べる。 ・川の環境に詳しい方をGTとして招く。	◆○○川源流探検 ◆クリーンキャンペーン ◆生き物捕まえ隊 ◆教室の生き物紹介！ ◆チラシやポスター製作 ・それぞれの活動に必要な情報を収集する。 実行①
整理分析	・アンケート結果について，視点を決めて分類・整理する。 ・これまでに飼育，観察した生き物の状況を，視点を決めて分類する。	・調べて分かったことを，視点を決めて分類する。 ◆生き物がもともとすんでいた環境に近づけることが大切だ！	・自分たちが実行した取組に参加した人々のアンケート結果を整理する。 ◆○○川のことが好きになってくれたか？
まとめ表現振り返り	・○○川の生き物を見たり飼ったりしている人が少なくて驚いた。たくさんの生き物がいる○○川の環境などについても調べ，生き物を元気に飼えるようにしたい。 【課題の設定】 ◆生き物を元気に飼ったり，○○川のことをもっと知ってもらうためにはどうすればいいのかな？	【まとめ・表現】 ・生き物のことや調べたことを新聞などにまとめる。 ・現在の○○川の環境について，気になった点を話し合う。	【まとめ・表現①】 ◆みんなの意見をもとに，取組内容を見直す。(生き物の解説を増やす，宣伝活動をする，等) ・新たな取組についても考える。 実行② 【まとめ・表現②】 ・取組に対する意見をまとめる。 ・これまで飼ってきた生き物を○○川へ返す。 ・お別れの会を開く。

【社会】「健康なくらしとまちづくり」
・ごみを減量するために自分にできることや取り組みたいことを考え，それを適切に表現する。(思・判・表)
・市で暮らす人々によるごみ減量の取り組みと，取り組む人々の思いを捉え，市民がごみの減量に携わっていくことの大切さを理解する。(知・技)
・グラフの見比べ方(技)

【理科】「自由研究」
・調べたことや作った物について，その過程や結果をまとめる。(技)
・研究の過程や成果などについて，自分の考えを表現する。(思・判・表)

【国語】「よりよい話し合いの仕方を考えよう」(話す・聞く)
・友達の考えとの共通点や相違点を考えながら，司会の進行にそって話し合う。(思・判・表)

「考えるための技法」の活用

【国語】「課題にそって報告文を書こう」(書く)
・組み立て表をもとに，相手を意識して構成を工夫して書く。(思・判・表)
・文章のまちがいを正したり，読み手に伝わる表現になっているか読み返したりする。(思・判・表)

【国語】「学級新聞を作ろう」(書く)
・書こうとすることの中心を明確にし，伝えたいことを正確に書き表す。(思・判・表)

【理科】「季節と生き物」通年
・生き物のようすが変化することを気温の変化と関係づけて，予想をもち，表現する。(思・判・表)
・動物の活動は，季節の気温の変化と関係していることを理解する。(知・技)

【国語】「不思議図かんを作ろう」(書く)
・「不思議図かん」に必要なものを調べたり，図を入れたりして表現する。(思・判・表)

【国語】「ポスターを使って発表しよう」(話す・聞く)
・テーマにそって調べ，理由や事例をあげて資料をもとにわかりやすく話す。(思・判・表)
・聞き手に話の中心が伝わっているか，確かめながら話す。(思・判・表)
・調べたり，ポスターを書いたりする際に，意味のよくわからない言葉を辞典で調べる。(知・技)

2　カリキュラム・マネジメントの充実による教育目標の実現

（2）どのような視点で単元を配列するのか

◇各教科等の共通点を関連付けるとともに，実際の児童生徒の姿や実現可能性を視野に入れて単元を配列していくことになります。

◇例えば，

「前後関係」・・単元間を関連付ける。先に行われた単元で身に付いた資質・能力が，あとの単元で活用・発揮されるもの。

「横断関係」・・教科等間を関連付ける。例えば，国語科で身に付いた資質・能力が，他の教科等において活用・発揮されるもの。

「上下関係」・・学年間を関連付ける。前の学年で身に付いた資質・能力が，後の学年で活用・発揮されるもの。

◇活用・発揮することによって，育成を目指す資質・能力は一層確かなものになると考えることができます。

◇関連付けるときは，シンプルにつないでみることから始めてみましょう。

例えば，

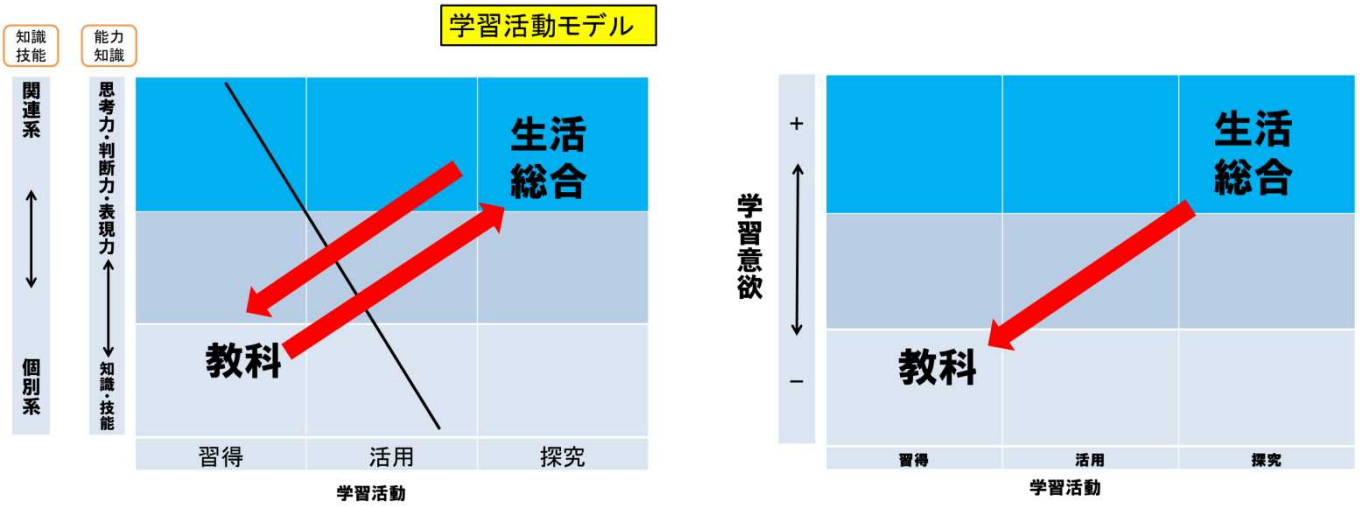
「重点化」・・中核となる教科等でつなぐ　もしくは　中心となる能力でつなぐ

「精選」・・・強い関係に限定してつなぐ

などです。

（3）生活科や総合的な学習の時間との関連を重視する単元配列表

◇生活科や総合的な学習の時間と各教科等との関連を図ることは特に重要です。生活科や総合的な学習の時間と各教科等とを関連付けることで，各教科等で個別に身に付けた知識・技能をつながりのあるものとして組織化し直し，改めて現実の生活に関わる学習活動において活用することが期待できます。また，そのことが，確かな知識や技能の習得にもつながります。一方，生活科や総合的な学習の時間での学習活動やその成果が，各教科等の動機付けや実感的な理解につながるなどのよさも考えられます。



（田村　学　2013）

このように，生活科や総合的な学習の時間と各教科等とは，互いに補い合い，互いに支え合う関係にあり，教育課程全体の中で相乗効果を発揮していきます。したがって，各教科等で身に付ける資質・能力を十分に把握し，生活科や総合的な学習の時間との関連を図った年間指導計画，単元配列表を作成し関連付け，実践して評価し改善していくことが，極めて大切です。

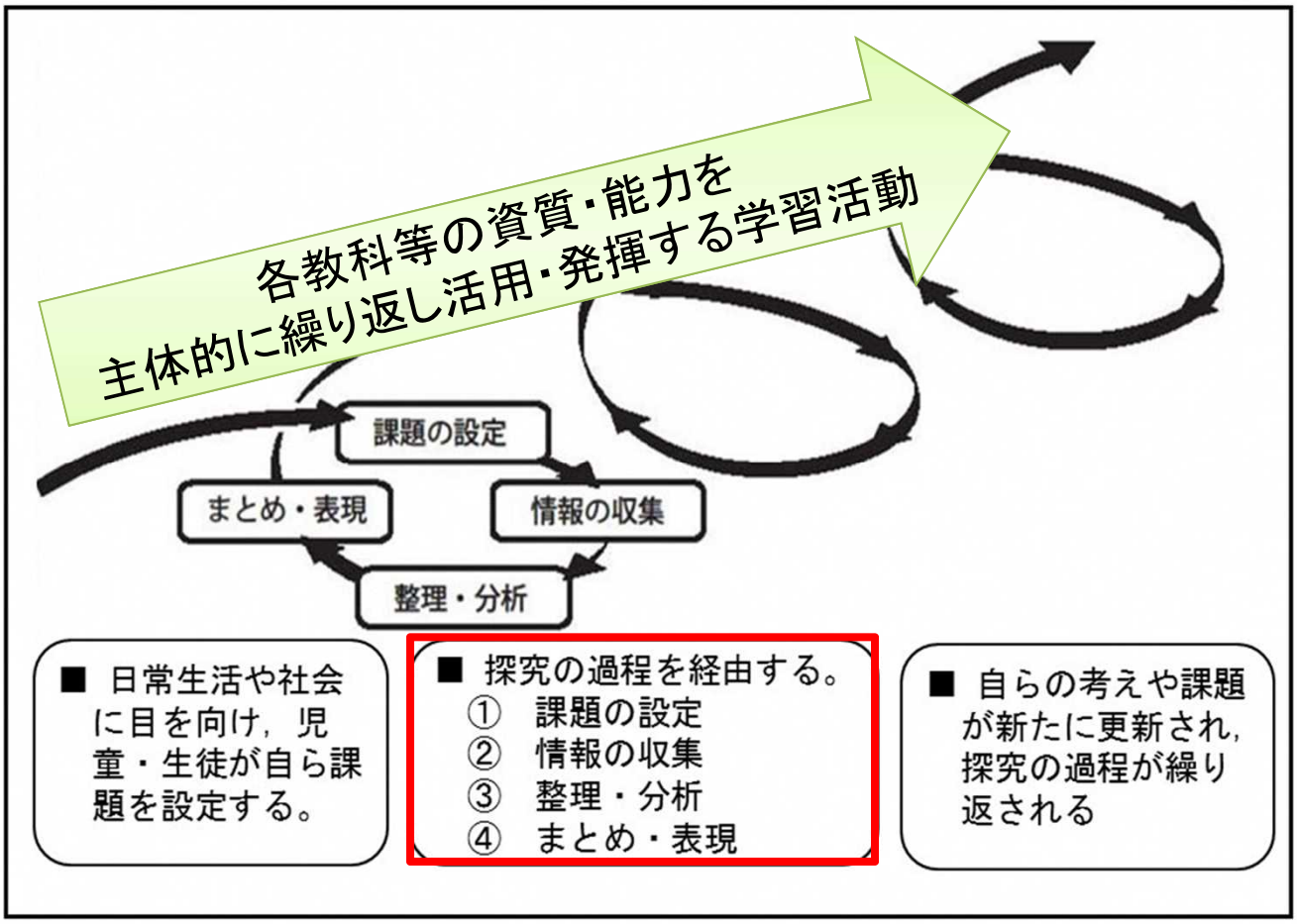
学習対象や探究課題	関連する各教科等の内容や資質・能力

今年度の生活科や総合的な学習の時間と，各教科等との関連を考えてみましょう。

（3）－1　各教科等の学習を生活科や総合的な学習の時間に生かす

◇小学校低学年においては，生活科を中心として，合科的・関連的な指導を進めることが重要です。

◇各教科等で身に付けた資質・能力を適切に活用・発揮して，総合的な学習の時間における探究活動を充実させていく関連の仕方が考えられます。



◇例えば，
社会科の資料活用の方法を生かして情報を収集する
算数科の統計の手法を生かしてデータを整理する
国語科で学習した表現方法を使ってレポートを作成する
理科で学習した生物と環境の学習を生かして，地域に生息する生き物の成育環境を考える
など

児童生徒の視点の広がりと学びの深まり

2　カリキュラム・マネジメントの充実による教育目標の実現

（3）－2　生活科や総合的な学習の時間の学習を各教科等に生かす

◇小学校低学年においては，生活科を中心とした合科的・関連的な指導を進めることが重要です。例えば，生活科の時間に取り組んだ体験活動等を，国語科の「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の題材として生かすことが考えられます。

◇総合的な学習の時間で行われた学習活動によって，各教科等での学習のきっかけが生まれ，意欲的に学習をはじめるようになったり，各教科等で学習していることの意味やよさが実感されるようになったりすることも考えられます。

◇総合的な学習の時間で行った体験活動を生かして，国語の時間に依頼状やお礼の手紙を書くなど，総合的な学習の時間での体験活動が各教科等における学習対象になることも考えられます。

◇例えば，以下のように総合的な学習の時間の学びを各教科に生かすことが考えられます。

総合的な学習の時間 → 興味関心 → 家庭科や保健体育科

【探究課題】
食をめぐる問題や環境とそれに関わる地域の農業・水産業や生産者

＜家庭科＞
・栄養のバランスを考えた食事や環境の学習に前向きに取り組む
＜保健体育科＞
・保健の学習における学習と関連付けて学びを広げたり深めたりする
など

総合的な学習の時間での体験活動	体験活動を踏まえて表現する場（国語科との関連）

総合的な学習の時間の体験活動を，各教科等の学習対象として生かす場面を考えてみましょう。

3　カリキュラム・マネジメントと主体的・対話的で深い学び

ここからは，カリキュラム・マネジメントと主体的・対話的で深い学び（いわゆるアクティブ・ラーニング）について考えていきます。

【中央教育審議会答申　第4章　2（3）】

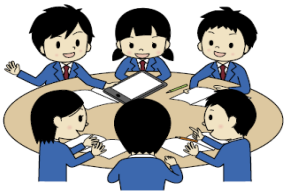
○単元や題材のまとまりの中で，子供たちが「何ができるようになるか」を明確にしながら，「何を学ぶか」という学習内容と，「どのように学ぶか」という学びの過程を，「カリキュラム・マネジメント」を通じて組み立てていくことが重要になる。

○「アクティブ・ラーニング」と「カリキュラム・マネジメント」は教育課程を軸にしながら，授業，学校の組織や経営の改善などを行うためのものであり，両者は一体として捉えてこそ学校全体の機能を強化することができる。

主体的・対話的で深い学び　は，

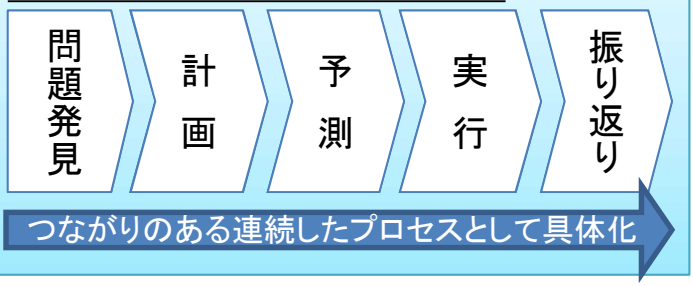
必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるというものではなく，単元や題材など内容や時間のまとまりを見通し，どのように構成するかというデザインを考えることが大切です。

（例）見通しを立てたり学習を振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか。
（例）対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか。



つまり，カリキュラム・マネジメントを通じて，学びの文脈を意識した単元（題材）を計画していくことが大切です。

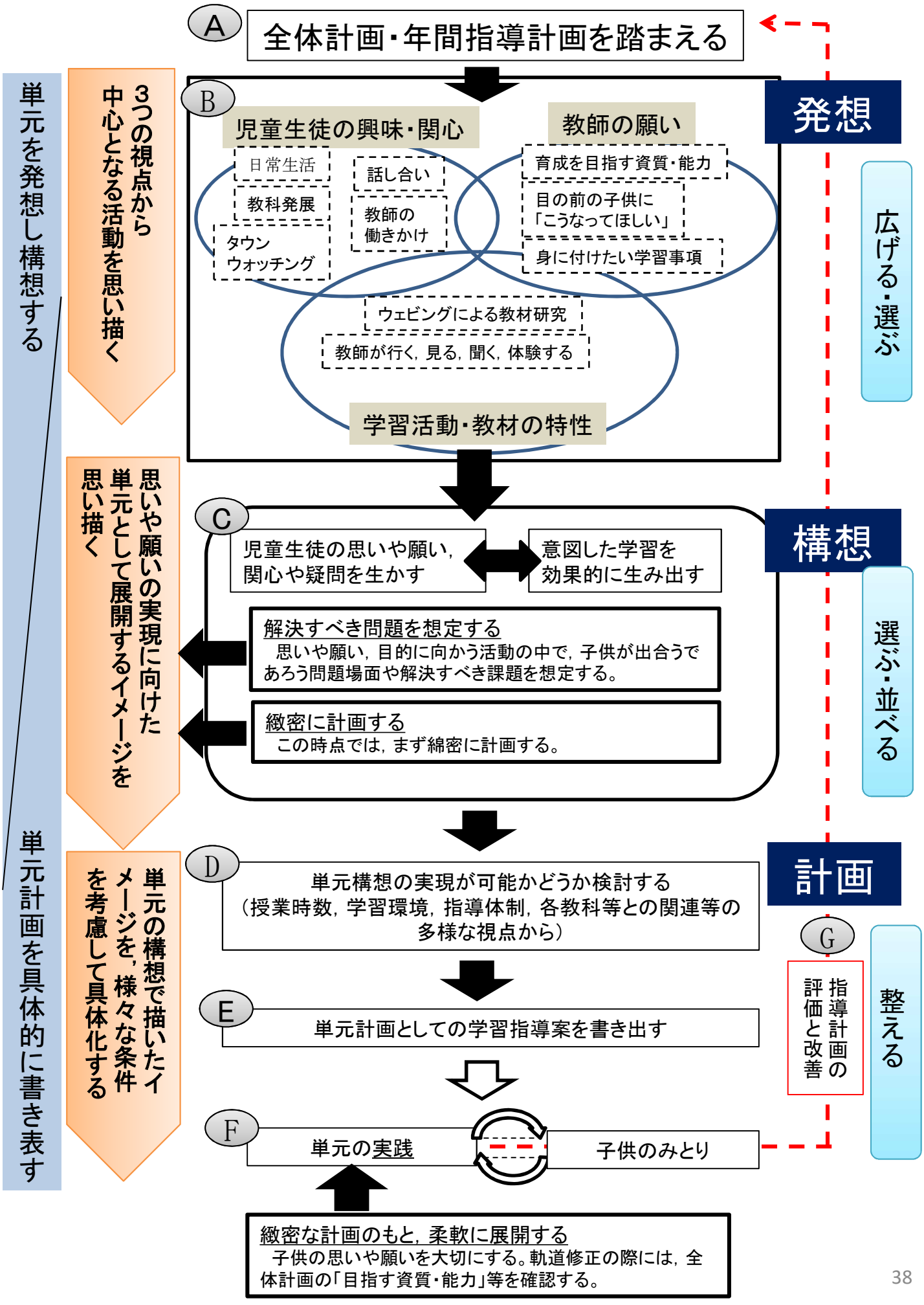
一連の問題解決のまとまり（例）



学びの文脈を意識して構成された単元では，学び手の子供は主体的になり，そこでは他者との学び合いも生まれ，学びの連続によって「深い学び」も実現できます。

＜社会科の例＞　※中教審答申別添資料より抜粋

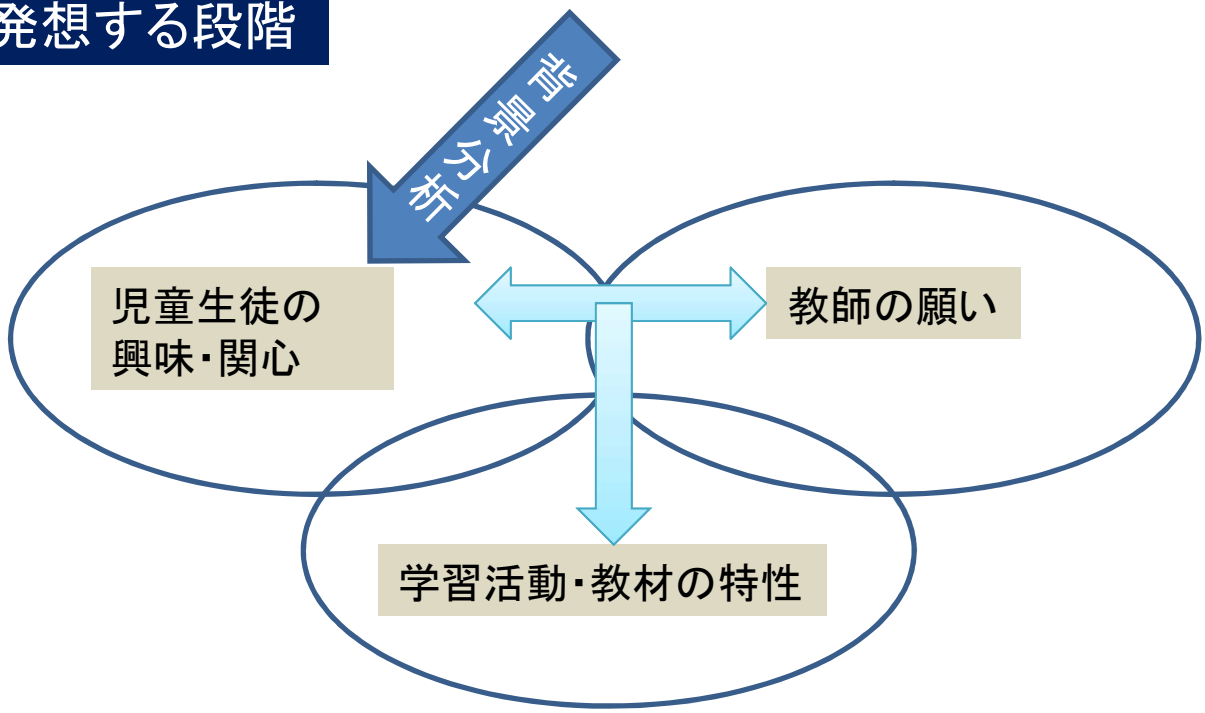
	課題把握		課題追究		課題解決	新たな課題
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
主な学習過程の例	●学習課題を設定する ・社会的事象等を知る ・気付きや疑問を出し合う ・課題意識を醸成する ・学習課題を設定する	●課題解決の見通しを持つ ・予想や仮説を立てる ・調査方法，追究方法を吟味する ・学習計画を立てる	●予想や仮説の検証に向けて調べる ・学校外での観察や調査などを通して調べる ・様々な種類の資料を活用して調べる ・他の児童生徒と情報を交換する	●社会的事象等の意味や意義，特色や相互の関連を考察する ・多面的・多角的に考察する ・話し合う（討論等） ●社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する ・複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する	●考察したことや構想したことをまとめる ・学習課題を振り返って結論をまとめる ・結論について他の児童生徒と話し合う ・学習課題についてレポートなどにまとめる	●学習を振り返って考察する ・自分の調べ方や学び方，結果を振り返る ・学習成果を学校外の他者に伝える ・新たな問い（課題）を見出したり追究したりする


A
全体計画・年間指導計画を踏まえる
発想
B
児童生徒の興味・関心
日常生活
話し合い
教科発展
教師の働きかけ
タウンウォッチング
教師の願い
育成を目指す資質・能力
目の前の子供に「こうなってほしい」
身に付けたい学習事項
ウェビングによる教材研究
教師が行く，見る，聞く，体験する
学習活動・教材の特性
広げる・選ぶ
3つの視点から中心となる活動を思い描く
単元を発想し構想する
C
児童生徒の思いや願い，関心や疑問を生かす
意図した学習を効果的に生み出す
構想
解決すべき問題を想定する
思いや願い，目的に向かう活動の中で，子供が出合うであろう問題場面や解決すべき課題を想定する。
緻密に計画する
この時点では，まず綿密に計画する。
選ぶ・並べる
思いや願いの実現に向けた単元として展開するイメージを思い描く
D
単元構想の実現が可能かどうか検討する
（授業時数，学習環境，指導体制，各教科等との関連等の多様な視点から）
計画
G
指導計画の評価と改善
整える
E
単元計画としての学習指導案を書き出す
F
単元の実践
子供のみとり
単元の構想で描いたイメージを，様々な条件を考慮して具体化する
単元計画を具体的に書き表す
緻密な計画のもと，柔軟に展開する
子供の思いや願いを大切にする。軌道修正の際には，全体計画の「目指す資質・能力」等を確認する。

3　カリキュラム・マネジメントと主体的・対話的で深い学び

◇単元を構想し，単元計画としてデザインするには，発想の段階・構想の段階・計画の段階の手順が考えられます。

発想する段階



◇発想する段階では，およその単元の概要を思い描くことが必要です。その際，
①児童生徒の興味・関心
②教師の願い
③学習活動や教材の特性
の3つの要素を考えていくことが大切です。

◇まずは，目の前の子供たちはどのような実態にあるのか，どのようなことに興味や関心があり，どのような学習を志向しているのか等を明確にしたいものです。

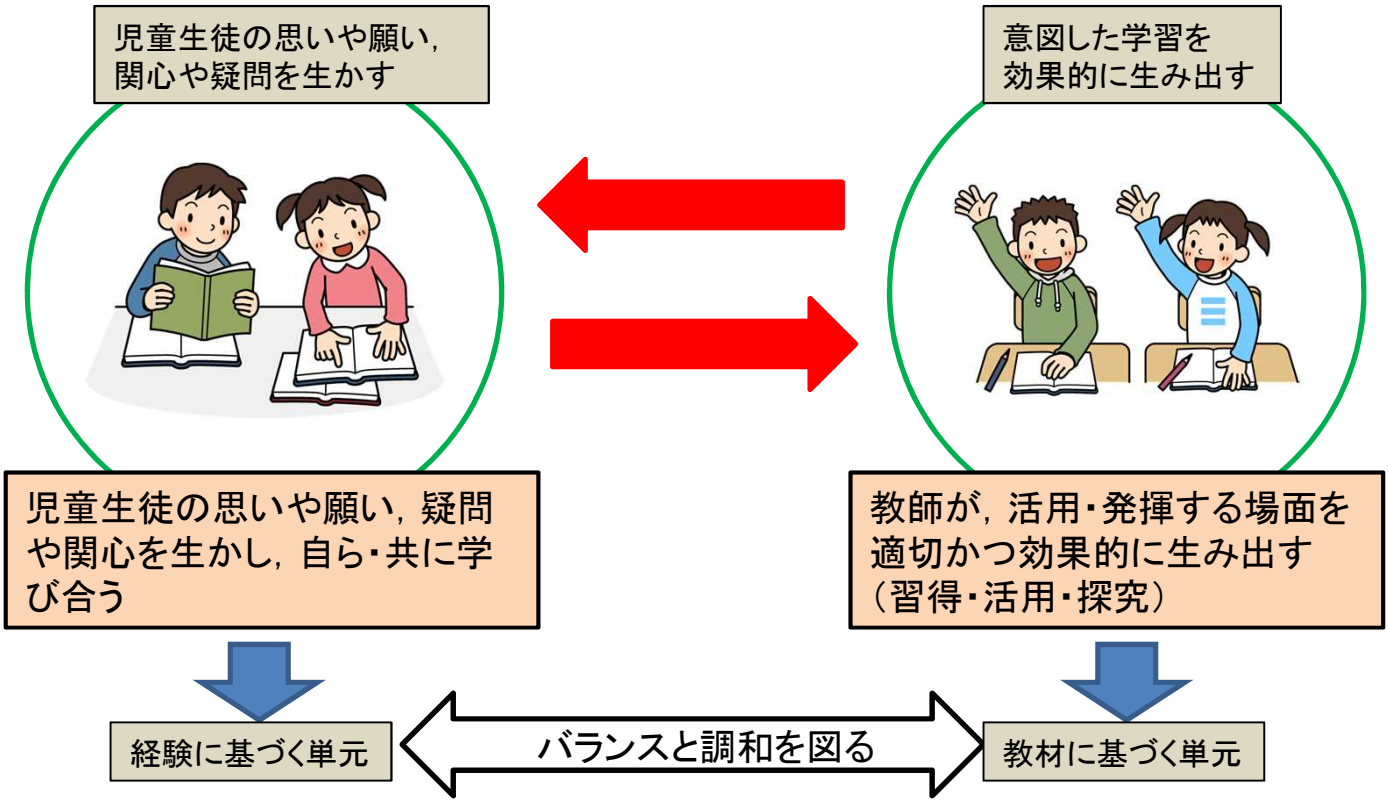
◇児童生徒の実態や興味・関心と教師の願い（単元の目標や資質・能力），教師の持ち味なども考慮します。さらに，子供の実態の背景をしっかりと分析します。そうすると，単元の中心的な学習活動や教材がはっきりしてくることになるでしょう。

子供の実態	背景・要因の分析

3　カリキュラム・マネジメントと主体的・対話的で深い学び

◇構想する段階でポイントになるのは，児童生徒の思いや願い，関心や疑問を生かす児童生徒中心の単元とするか，意図した学習を効果的に生み出す教師中心の単元とするか，ということです。

構想する段階



◇「児童生徒中心の単元」「教師中心の単元」の両者のバランスは，各教科等の特質や単元の特性によって比重や割合が変わってくるものと考えられます。

◇例えば，生活科の栽培単元であれば，児童の興味や関心を生かして栽培する作物を選ぶことが考えられます。1年生になって，はじめて1人で栽培活動を行うとすれば，発芽から開花，種取りまでが安定的に行われるアサガオを選択することが考えられます。指導者は，アサガオに強く興味・関心を抱くような工夫を行います。

◇2年生の算数科「かけ算」であれば，児童が興味・関心を抱くように，身の回りの素材や卵パックを使って学習を行うなど，暮らしとの関係を強調して学習活動を行うようにすることなどが考えられます。しかし，児童が出合うかけ算は，五の段から始まり，次に二の段へと進めていくことが多いと考えられます。学習内容としてのかけ算の特性を考慮しつつ，教師の願いとしての学習内容が優先されます。

◇生活科の栽培単元も，算数科のかけ算の単元も，児童の興味・関心と教師の願いを視野に入れ，その両者の間に学ぶべき内容が実現しやすくなる学習活動や教材が生成することとなります。

3　カリキュラム・マネジメントと主体的・対話的で深い学び

◇発想の段階で生まれてきた様々な学習活動を，一連の問題解決の流れと児童生徒の意識の流れに沿った展開として整えます。この段階では，具体的な単元計画として実現可能かどうかを幅広く検討していくことが求められます。

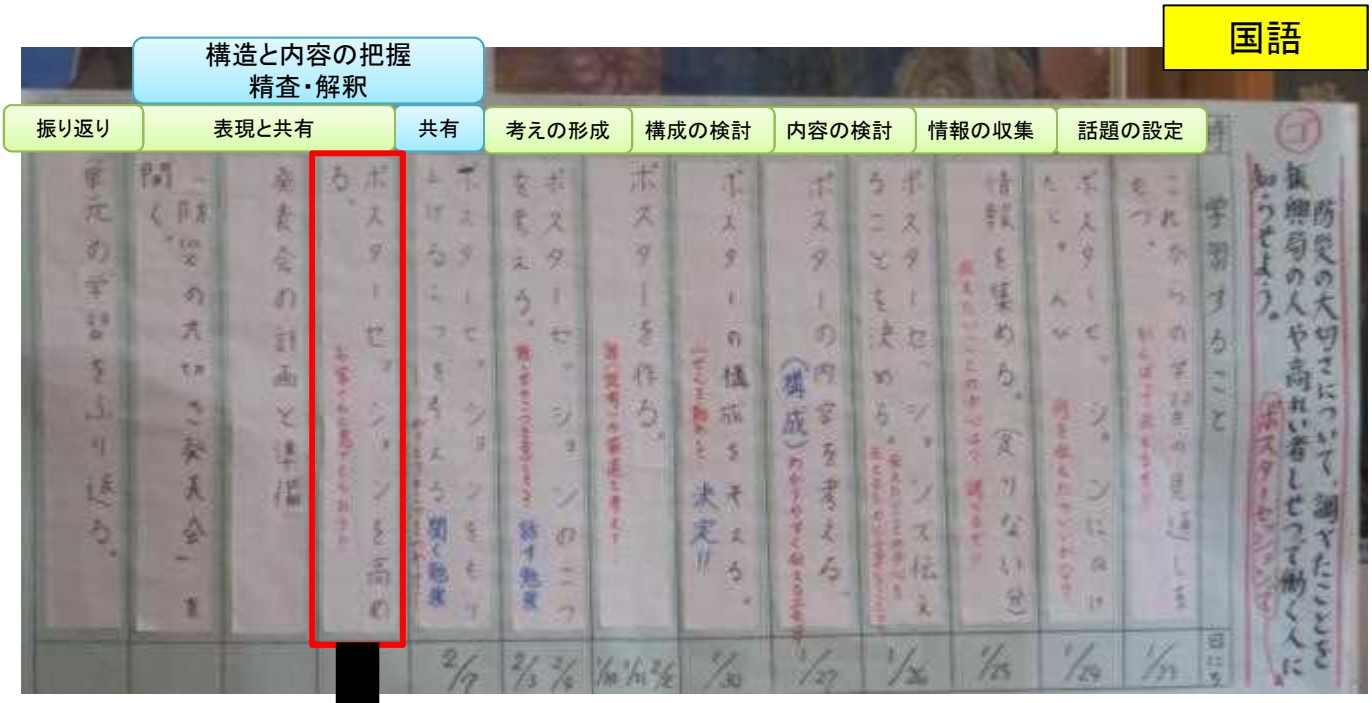
計画する段階

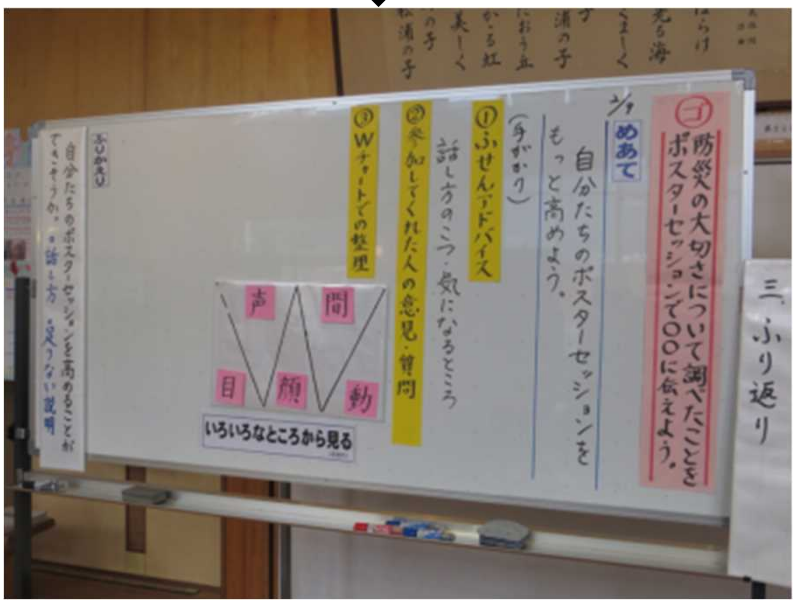
授業時数，学習環境，学習形態，指導体制，各教科等との関連等を視野に入れて指導計画を立案します。

一連の問題解決のまとまりとして学習活動が単元化されているかどうかがポイント！

言語活動を通して指導事項を指導する・・・児童生徒の実態と興味・関心，教師の願いを踏まえて

国語





（佐伯市立松浦小学校の実践より）

◇「育成を目指す資質・能力」を明確にした上で，その実現に向かってどのような言語活動が必要なのか吟味します。

◇1単位時間が単元の中でどのように位置付いているのかを確認することができます。

◇この例では，単元計画の中に単元のゴールが示されています。また，本時（1単位時間）のゴールも示されています。ゴールを意識することによって，具体的な学習過程や学習活動をイメージすることができます。

計画する段階

考えを説明する学習場面を位置付け

小単元	広さの表し方		長方形と正方形の面積		
時	1	2	3	4	5
学習活動	長方形と正方形の広さを1㎠の単位正方形のいくつ分かで比べる。	方眼上に示されたいろいろな図形の面積の求め方を説明する。	長方形や正方形の面積を計算で求める方法を考える。	長方形の面積と一方の辺の長さが分かっている時、面積を求める公式を用いて、もう一方の辺の長さを求める。	長方形や正方形の面積を求める公式を活用し、複合図形の面積を求める方法を、図や式、言葉を用いて説明する。
評価規準例	・広さも数値化できることや、「面積」の用語、概念、表し方を理解している。 (知識・理解)	・方眼上に示された図形の面積を求めることができる。 (技能)	・1㎠の単位正方形の幾つ分になるかを求める式から、長方形の求積公式を考えている。 (数学的な考え方)	・長方形の求積公式を用いて、長方形の面積と一方の辺の長さから、もう一方の辺の長さを求めることができる。 (技能)	・複合図形のいろいろな求積方法を図や式、言葉を用いて説明することができる。 (数学的な考え方)
主なつまずき	・1㎠の単位正方形の幾つ分で図形の面積を捉えることができない。	・図形を変形させて、1㎠の単位正方形をもとにした形作りができない。	・長方形の中に1㎠の単位正方形を敷き詰めていくことができない。	・公式に□をあてはめた後、□を求める式にすることができない。	・複合図形を長方形に分割するなどの見方ができない。
つまずきへの対応	・教科書の登場人物の考え方を使い、1㎠の単位正方形がそれぞれ幾つ分になるかを調べるよう助言する。(※1)	・切り取り線の入った図を用意し、実際に切り取って動かすことで1㎠になることを確認する。 (※2)	・教科書の問いを使い、1㎠の単位正方形が縦に何個、それが横に何列並ぶかを順に考えるよう助言する。(※3) ・1辺×1辺はたて×横と同じことを意味することを説明する。(※4)	・縦に8等分した補助線が入っている長方形を用意し、□個ある面積を8倍したら56㎠になっていることを確認し、56を8でわると□が求められることを助言する。 (※5)	・補助線の引いてある図形を用意し、それぞれの長方形に色を付け、縦の長さ、横の長さを確認する。(※6)
指導のポイント	・「面積」「1平方センチメートル」「1㎠」の意味や書き方、読み方 ・㎠は面積の単位である。 ＜指導する＞	・面積が1㎠になる図形は、正方形だけとは限らないこと。 ＜確認する＞	・1㎠の単位正方形を敷き詰めて、その個数を求める式を考え、計算して面積を求める。 ・長方形の面積を計算で求めるには、たてと横の辺の長さをはかり、その数をかければよ ・長方形の面積＝たて×横 ・正方形の面積＝1辺×1辺 4) ・「公式」の用語	・長方形の面積を求める公式を使って、辺の長さを求めるようにする。 技能	・複合図形の面積を求める。 ・長方形でも正方形でもない形でも、いくつかの長方形(正方形)に分けたり、大きい長方形の面積から小さい長方形の面積を引いたりしていくことで、面積を求めることができることを見付けるようにする。

公式の活用場面を位置付け

小単元	長方形と正方形の面積	大きな面積の単位			
時	6	7	8	9	10
学習活動	身の回りにあるいろいろなものの面積を調べる。	面積を表す単位「㎡」の意味と大きさを知り、1㎡は何㎠になるかを調べる。	縦と横で長さの単位が異なる長方形の面積を求める。	面積を表す単位「㎢」の意味と大きさを知り、1㎢は何㎡になるかを調べる。	面積を表す単位「a」「ha」の意味と大きさを知り、1aや1haはそれぞれ何㎡になるかを調べる。
評価規準例	・面積を調べることの楽しさやよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとしている。 (関心・意欲・態度)	・単位「㎡」の意味と、既習単位「㎠」との関係を理解している。 (知識・理解)	・面積を求めるためには、長さの単位をそろえる必要があることを理解している。(知識・理解)	・単位「㎢」の意味と、既習単位「㎡」との関係を理解している。(知識・理解)	・「a」「ha」で表された面積を「㎡」を用いて表すことができる。 (技能)
主なつまずき	・面積の見当を付けることができない	・1㎡を㎠に単位変換することができない。	・面積の大きさを見当を付けることができない。	・1㎢を㎡に単位変換することができない。	・1aや1haを㎡に表すことができない。
つまずきへの対応	・実際の1㎠の大きさを用意して、面積の見当を付けるように助言する。(※9)	1㎡＝100㎠とならないように、1辺の長さをcmに変換して計算するように助言する。(※10)	・実際の1㎡の大きさを用意して、面積の見当を付けるように助言する。	・1㎢＝1000㎡とならないように、1辺の長さをmに変換して計算するように助言する。(※12)	・長方形の図に、1a、1haを書き込み、幾つ分かを視覚的にも理解できるようにする。(※13)
指導のポイント	・身のまわりにあるいろいろなものの面積を調べる。 ・長方形の面積を求める[illegible]を使って、面積を求[illegible]ものを決め、面[illegible]見当を付ける。 ・長さの単位はcmとし、mmの部分は四捨五入して面積を求めるために必要な辺の長さを調べる。 [illegible]調べたものを発表し合う。	教室の面積を求め[illegible]これまでに使ってき[illegible]で面積を求める。 ・9m＝900㎝、7m＝700㎝だから、900×700＝630000 630000㎠ ・教室のような広いところの面積は、1辺が1mの正方形の面積を単位として表す。 ・「1平方メートル」「1㎡」 ＜指導する＞	[illegible]単位が[illegible]積を求[illegible]。 ・学校の中のいろいろなところの面積を調べる。 ・調べるものを決め、面積の見当を付ける。 (※11) ・長さの単位はmとし、cmの部分は四捨五入して面積を求めるために必要な辺の長さを調べる。 [illegible]調べたものを発表し合う。	町の面積を求める。 ・これまでに使ってきた単位で面積を求める。 ・5km＝5000m、8km＝8000mだから、5000×8000＝40000000 40000000㎡ ・町や県のような大きい面積は、1辺が1kmの正方形の面積を単位として表す。 ・「1平方キロメートル」「1[illegible] ○1㎢＝1000000㎡	畑や牧場の面積を求める。 ○畑の面積 30×20＝600 600㎡ ○牧場の面積 200×400＝80000 60000㎡ ・1辺が10mや100mの正方形の面積を単位として表すことがある。 ・「1アール」「1a」 ・「1ヘクタール」「1ha」 ・1a＝100㎡、1ha＝[illegible]は何aになる[illegible]場の面積は何haになるか」求める。

体験的・協働的な場面を位置付け

体験的・協働的な場面を位置付け

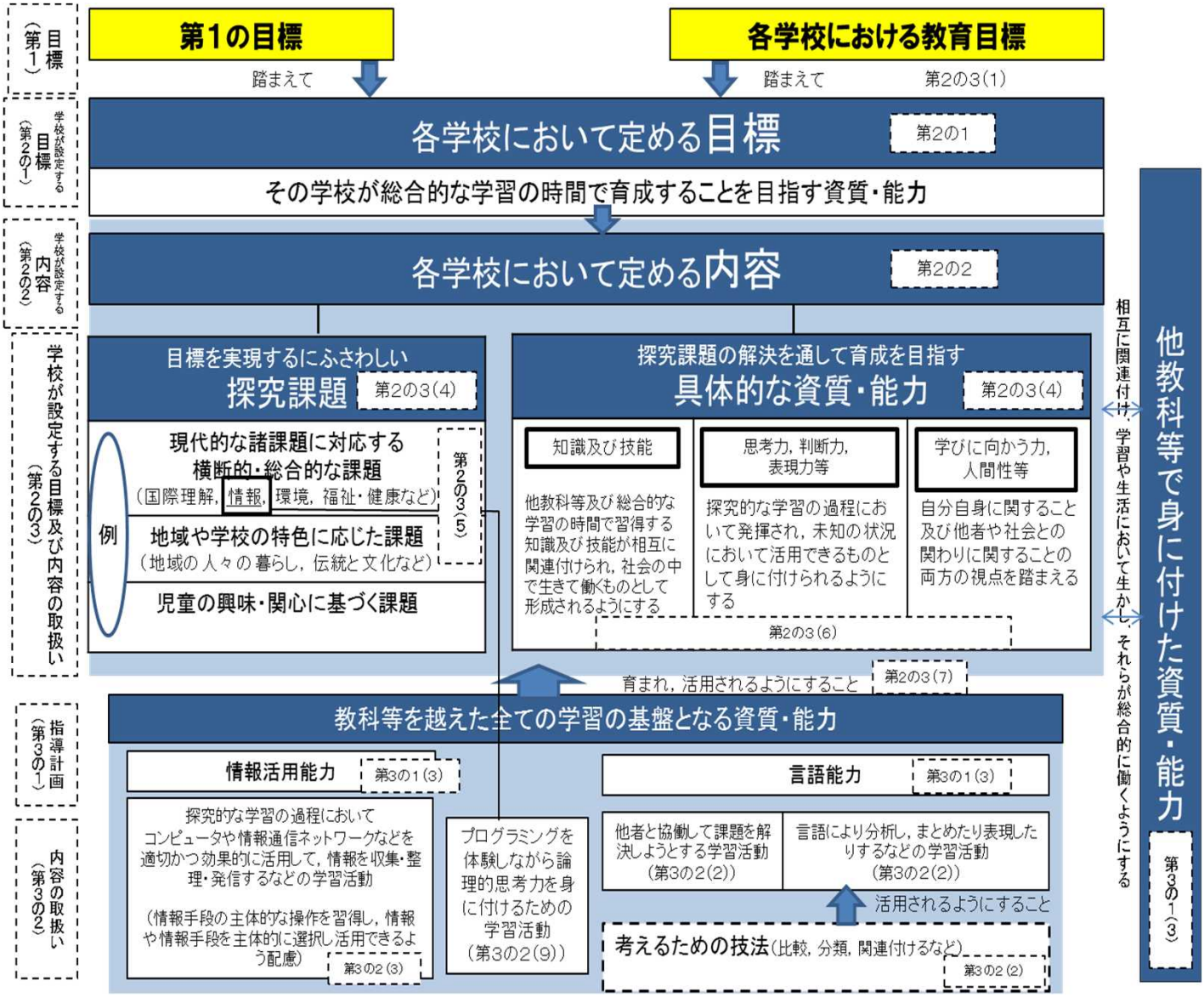
町や県の面積などの広い面積については，地図帳を活用して社会科との関連を図ろう

◇数量図形の概念の理解という学習内容を優先させながら，児童の興味・関心が生まれるような場面も計画します。

4　総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメント

各学校は，第1に示された総合的な学習の時間の目標を踏まえて，各学校の総合的な学習の時間の目標や内容を適切に定めて，創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する必要があります。ここに，総合的な学習の時間の大きな特質があります。

総合的な学習の時間の時間の構造イメージ（小学校）



※中学校は，「目標を実現するにふさわしい探究課題」に「職業や自己の将来に関する課題」が示されています。

総合的な学習の時間の改訂の趣旨には，次のように示されています。

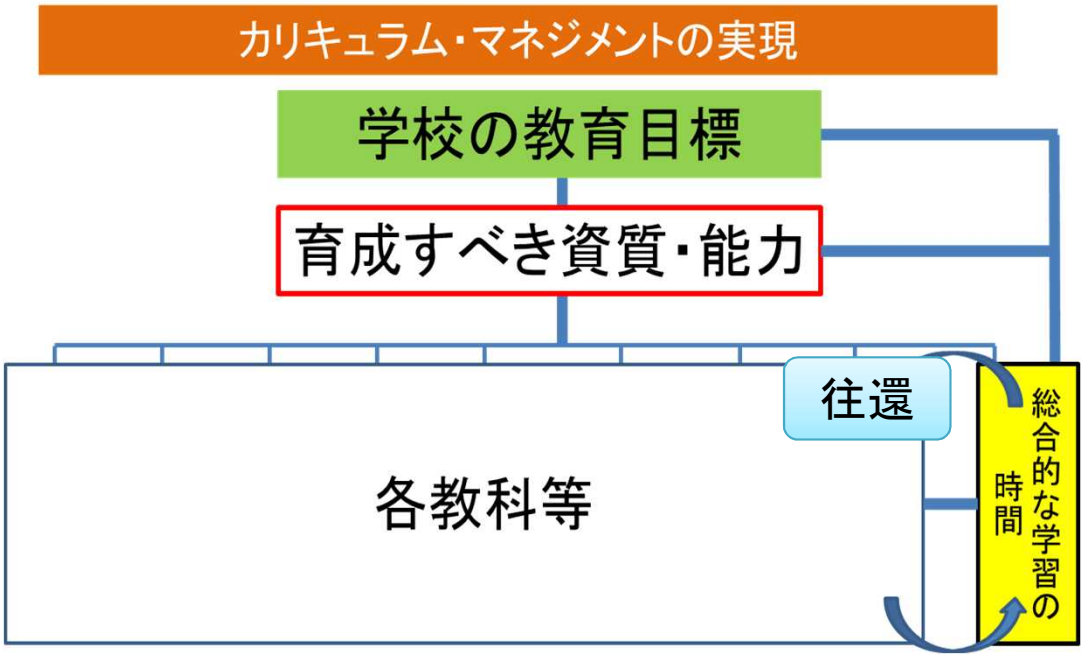
◆総合的な学習の時間を通してどのような資質・能力を育成するのかということや，総合的な学習の時間と各教科等との関連を明らかにするということについては学校により差がある。これまで以上に総合的な学習の時間と各教科等の相互の関わりを意識しながら，学校全体で育てたい資質・能力に対応したカリキュラム・マネジメントが行われるようにすることが求められている。

次に，総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメントについて，具体例を基に考えていきたいと思います。

4　総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメント

学校の教育目標と総合的な学習の時間の目標を関連付ける

【第1章 第2 の1】
1 各学校の教育目標と教育課程の編成
　教育課程の編成に当たっては，学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ，各学校の教育目標を明確にするとともに，教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。その際，第5章（中は第4章）総合的な学習の時間の第2の1に基づき定められる目標との関連を図るものとする。



（中央教育審議会　教育課程部会　生活・総合的な学習の時間WG　2016.2.23　資料）

※総合的な学習の時間の目標は，各学校が育てたいと願う児童生徒像や育てようとする資質や能力及び態度などを表現したものになることが求められるため，学校の教育目標と直接的につながる。

貴校の学校の教育目標に示された「育成を目指す資質・能力」を確認してみましょう	
知識及び技能	
思考力，判断力，表現力等	
学びに向かう力，人間性等	

4　総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメント

学校の教育目標と総合的な学習の時間の目標を関連付ける

【小・中学校学習指導要領　第5（4）章　総合的な学習の時間】
1 目標
　各学校においては，第1の目標を踏まえ，総合的な学習の時間の目標を定める。

各学校においては，総合的な学習の時間の目標を定めることとされています。
①各学校が創意工夫を生かした探究的な学習や，横断的・総合的な学習を実施すること
→地域や学校，児童生徒の実態や特性を考慮した目標を，各学校が主体的に判断して定める

②各学校における教育目標を踏まえ，育成を目指す資質・能力を明確に示すこと
→総合的な学習の時間が各学校のカリキュラム・マネジメントの中核となることが明確化

③学校として教育課程全体の中での総合的な学習の時間の位置付けや他教科等の目標及び内容との違いに留意しつつ，この時間で取り組むにふさわしい内容を定める

各学校が定める総合的な学習の時間の目標の設定例や留意点は，解説P.19　P70に示されています。ご確認ください。

【佐伯市立松浦小学校の設定例】

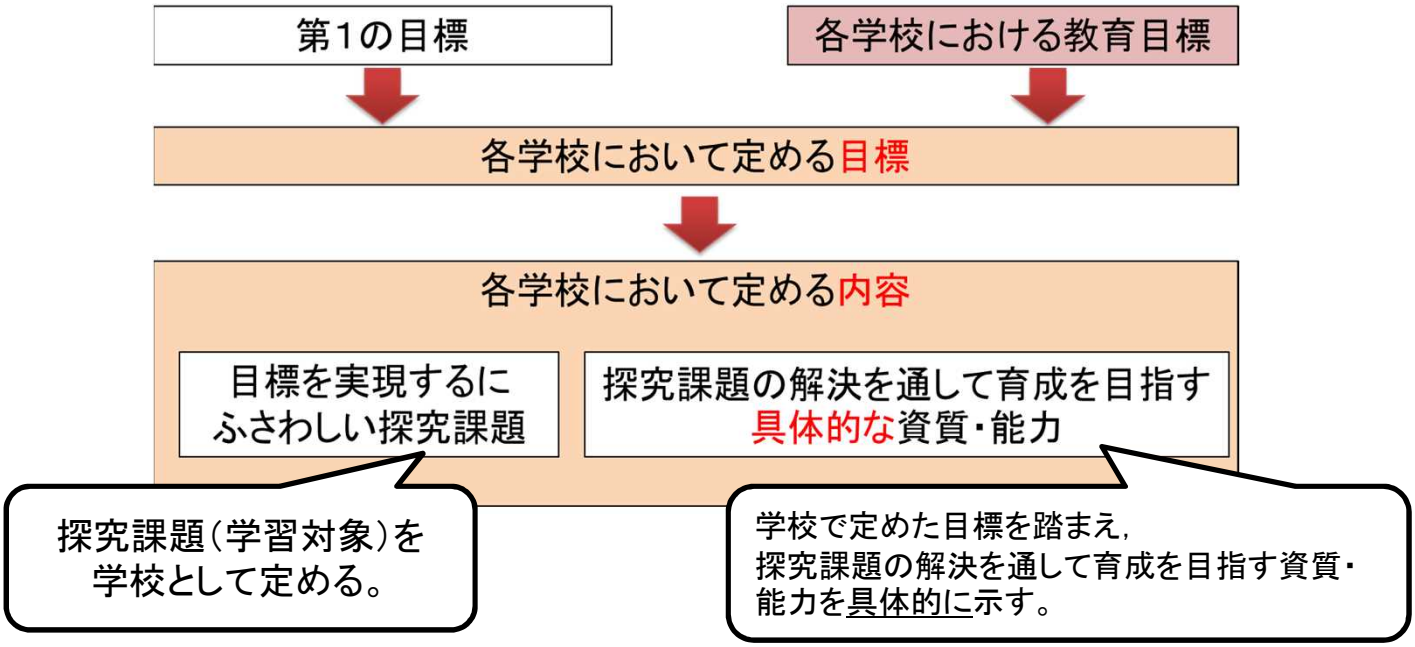
	知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
教育目標	基礎的・基本的な知識及び技能，生活習慣を身に付け，それを他の学習や生活場面で生かす児童の育成	思いや願いの実現や課題の解決に向けて，様々な視点に沿って考えたり，主体的に判断したりして，創造的に学ぶ児童の育成	自分の学びや生活を振り返り，自分自身のよさに気付き，さらに自分のくらしを豊かにしていこうとする児童の育成
総合の目標	探究的な学習のプロセスの中で，よりよく課題を解決するための知識や技能を身に付け，問題解決的に学ぶことのよさを理解するとともに，地域の「ひと」「こと」「もの」に関して，自らの生き方に結び付く概念を形成し，学びや生活に生かせるものとして理解を深める。	地域や地域に関わる自分の願いを実現するために，問題場面に気付き，課題を立て，情報を集め，観点に応じて整理・分析したり，判断したりすることで対象を捉え直すとともに，必要な言葉を選び，情報を的確に伝えたり，受け取ったりする表現力を育成する。	願いの実現に向けて取り組む中で，対象と繰り返し関わり，その面白さや価値を実感したり，願いや目標を更新したりするとともに，他者と協働的に学習に取り組む中で，学んだ内容や自分のよさに気付き，それを生かして自らの生活を高めていこうとする態度を育成する。

※下線部が，学校の教育目標と関連する部分として設定されています

4　総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメント

総合的な学習の時間の内容を定める

【小・中学校学習指導要領　第5（4）章　総合的な学習の時間】
2 内容
　各学校においては，第1の目標を踏まえ，総合的な学習の時間の内容を定める。



※「目標を実現するにふさわしい探究課題」の例は学習指導要領解説総合編P77（中はP73～）を参照
※「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」の例は，上記解説P78（中はP74）参照

	探究課題	身近な自然環境とそこに起きている環境問題，その解決に取り組む組織や人々の思いや願い
具体的な資質・能力	知識及び技能	・生物は，色，形，大きさなどに違いがあり，生育の環境が異なること（多様性） ・身近な自然において，生物はその周辺の環境と関わって生きていること（相互性） ・自然環境は，様々な要因で常に変化する可能性があり，一定ではないこと（有限性） ・よりよい環境の創造に向けた組織や人々の取組があること（連携・協力）
	思考力，判断力，表現力等	・問題状況の中から課題を発見し設定する（課題の設定） ・情報収集の手段を選択し，必要な情報を収集し蓄積する（情報の収集） ・情報や考え，事象を比較したり関連付けたりして課題解決に向けて考える（整理・分析） ・相手や目的に応じて分かりやすくまとめ表現する（まとめ・表現） ・学習の進め方を振り返り，学習や生活に生かそうとする
	学びに向かう力，人間性等	・自分の特徴やよさを理解するとともに，異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとする（自己理解・他者理解） ・自他のよさを生かしながら協働して問題の解決に向けた探究に取り組もうとする（主体性・協働性） ・自己の生き方を考えるとともに，進んで実社会・実生活の問題の解決に取り組もうとする（将来展望・社会参画）

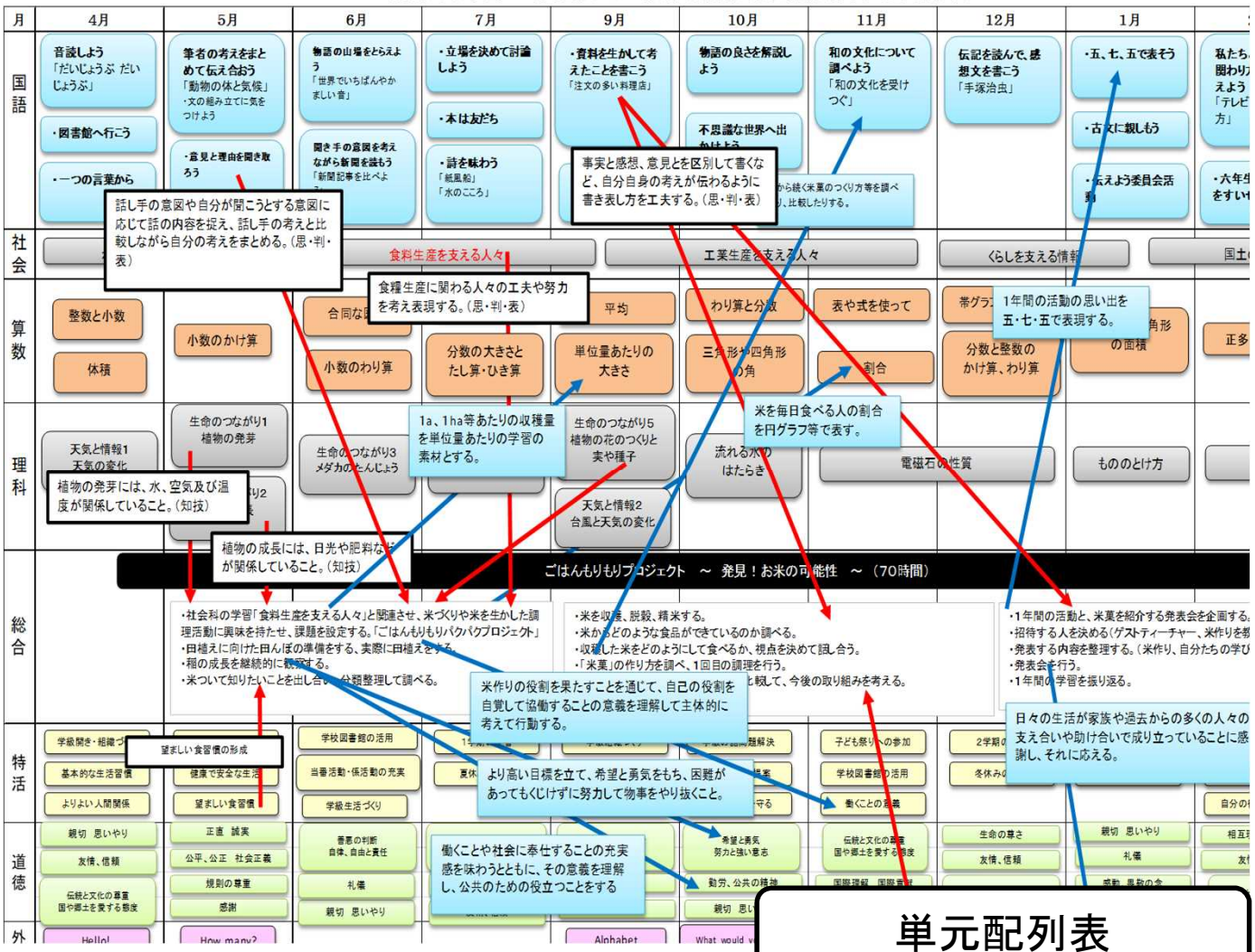
各学校が目標や内容を設定する際には，どのような概念的な知識が形成されるか，どのように概念的知識を明示していくかなどについても検討する必要があります。

4　総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメント

各教科等との関連を図る

総合的な学習の時間においては，横断的・総合的な学習を行う観点から，各教科等との関連的な指導が最も多く，幅広く行われることが予想されます。
各教科等で身に付けた資質・能力を，改めて現実の生活に関わる学習において活用・発揮していくことが期待されています。

【各教科等の資質・能力→総合的な学習の時間】
〇社会科の資料活用の方法を生かして情報を収集する
〇算数科のデータの活用での学びを生かして情報を整理する
〇国語科で学習した文章の書き方を生かして分かりやすいレポートを作成する
〇理科で学んだ生物と環境の学習を生かして，地域に生息する生き物の生育環境を考える　など
（P28　再掲）



上記のように，各教科等との関連を明示した書式を工夫する（単元配列表）とともに，育成を目指す資質・能力が記され，それらが相互に関連することを示せば，それぞれの学習活動の一層の充実と，資質・能力の育成につながります。

4　総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメント

総合的な学習の時間と各教科等や実生活とをつなぐカリキュラム・マネジメント

総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメントについて，
まとめてみます。

○各学校の教育目標を踏まえて，学校としての目標・内容を決定
○各教科等で身に付けた固有な力を実生活や現実社会の総合で発揮し，使いこなす
○実社会や各教科等とのつながりを意識
○言語能力や情報活用能力を基盤として育成（総合＋各教科等）

総合的な学習の時間と各教科等や実生活とつなぐしかけとして，
例えば以下のような学習活動を行うことが考えられます。

①日常生活や実社会の現実に触れる学習

②実験，観察，調査活動

③基礎的な言語活動を位置付ける
（描写　要約　紹介　説明　記録　報告　対話　討論等）

④基礎的な数学的活動を位置付ける
（計算　図　表　グラフ　計測　統計等による処理，表現）

⑤成果物を作成する
（学習ファイル　論文　作品等，外部への発信）

（平成30年2月10日　生活科・総合的学習指導者研修会　四ヶ所講演資料より）

4　総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメント

単元をデザインする手順

各教科等や生活とつなぐことを意識しながら，単元をデザインしてみましょう。

A　全体計画・年間指導計画を踏まえる

単元計画を作成するにあたっては，その前提として，学校の全体計画・年間指導計画を踏まえる必要がある。

B　3つの視点から，中心となる活動を思い描く

どの視点から構想を始めても，他の２つの視点についても十分に思いを巡らせることが大切である。

①児童生徒の興味・関心

児童生徒の実態や興味・関心を出発点とすることで，児童生徒の主体的な活動が保障できる。

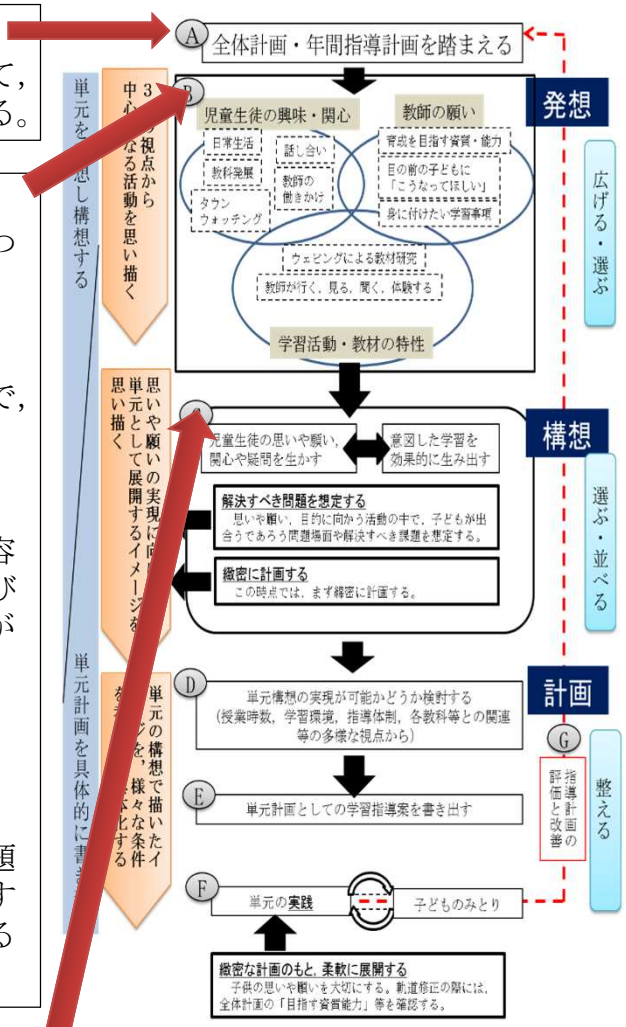
②教師の願い

教師の願いを出発点とすることで，どのような内容について学ばせたいのか，どのような資質や能力及び態度を身に付けさせたいのかを明確にした単元構想が可能となる。

③教材の特性

教材（学習材）とは，児童生徒の学習を動機付け，方向付け，支える学習の素材のことである。

教材の特性を出発点とすることで，どのような問題解決や探究活動を行うことができるか，明確に見通すことができる。その際，横断的・総合的な学習になるように意識することが求められる。



※P31参照

C　探究的な学習として単元が展開するイメージを思い描く

①児童生徒による主体的で粘り強い問題の解決や探究活動を生み出すには，**児童の関心や疑問を重視**し，適切に取り扱うこと。

②問題の解決や探究活動の展開において，**教師が意図した学習**を効果的に生み出していくこと。

児童生徒が主体的に進める活動の展開においては，**教師が意図した内容を児童生徒が自ら学んでいくように単元を構成する点に難しさがある。**そこでまず，その関心や疑問から，児童生徒はどのような活動を求め，展開していくだろうかと考える。そして，活動の展開において出会う様々な問題場面と，その解決を目指して児童が行う問題の解決や探究活動の様相，さらにそれぞれの学習活動を通して児童生徒が学ぶであろう事項について，考えられる可能性をできるだけ**多面的，網羅的に予測**する。その際には，各学校で定めた探究課題，育成を目指す資質・能力との照らし合わせを行う。

4　総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメント

各教科等や生活とつなぐことを意識しながら，単元をデザインしてみましょう。

D　単元構想の実現が可能かどうか検討する

まず，単元を構成する諸活動を考えた後に，各活動が児童の意識や活動の自然な流れに沿って展開できるかどうかを検討する。流れに不自然さや無理がある場合には，順番を入れ替えたり，活動の間に別の活動を挟んだり省略したりすることで，単元構想の実現可能性をより高めることができる。さらに，各活動の授業時数，学習環境，学習形態，指導体制，各教科等との関連等の多様な視点から，単元構想が実際に実現可能かどうかを吟味する。

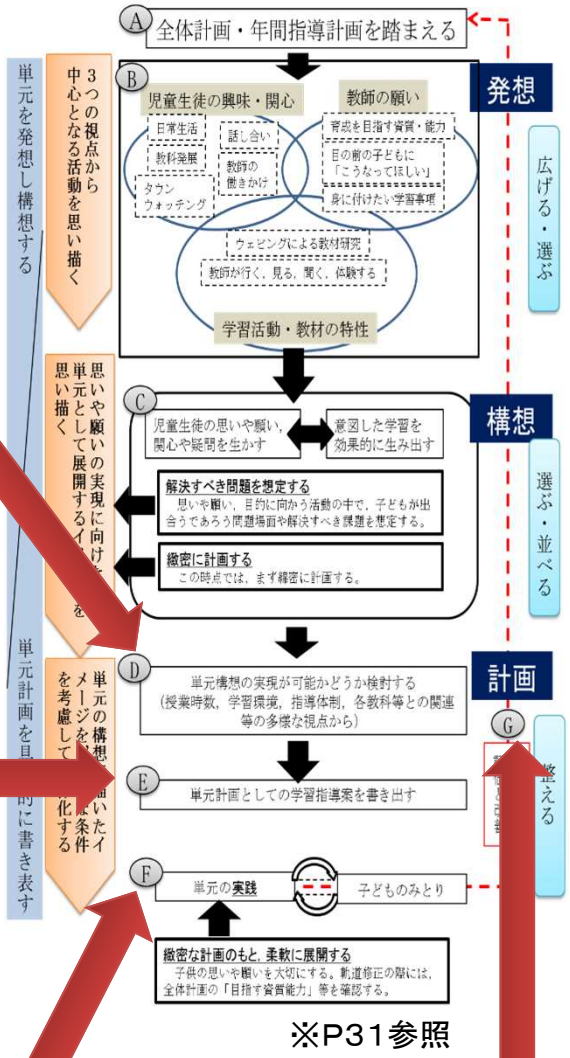
E　単元計画としての学習指導案を書き表す

（冊子版解説P.104　HP版P.99）

単元の計画を具体的に表現するには，例えば，次に示す項目を学習指導案に位置付けることが考えられる。

①単元名
②単元目標
③児童生徒の実態
④教材について
⑤指導について
⑥育成を目指す資質・能力
⑦単元の展開　　など

単元の学習を通して，どのような概念的な知識を児童生徒が形成するのか，どのような思考力，判断力，表現力等や学びに向かう力，人間性等の伸長を期待しているのかを明確にし，児童生徒の興味・関心から始まる学習活動の連続が，探究的な学習となるよう単元を構想しなければならない。



※P31参照

F　単元の実践

どれだけ丁寧に単元づくりを行っても，**児童生徒の活動は教師の想定通りにはならない場合もある。**その際には，計画通りに実行するのではなく，**児童生徒の動きに応じて柔軟に修正しつつ学びを生みだそうとする，教師の構えが重要**になってくる。

G　指導計画の評価と改善

単元の実践を振り返り，単元計画を見直すとともに，次年度の全体計画や年間指導計画の改善に役立てることが必要である。

おわりに

これまで，学校の教育目標達成に向け，カリキュラム・マネジメントの充実が重要であることを説明してきました。

学校の教育目標をよりよく達成するために行われるカリキュラム・マネジメントは，今回の改訂によって新たに示されたものではなく，2008年の中央教育審議会答申の中で，「各学校においては，（中略）教育課程や指導方法等を不断に見直すことにより効果的な教育活動を充実させるといったカリキュラム・マネジメントを確立することが求められる」ことがすでに示されていました。

今後は，このカリキュラム・マネジメントを「確立」することから一歩進み，「充実」させることによってこれからの子供たちに必要とされる資質・能力を確実に育んでいくことが大切です。

一方で，他教科との関連を意識するあまり，その教科本来の指導事項があいまいになってしまうことは避けなければなりません。まずは，各学校の教育目標の達成を目指しながら各教科等で育成を目指す資質・能力を確実に身に付けさせることが重要であり，その上でカリキュラム・マネジメントの充実により，効果的に教育活動を展開していくことになります。

カリキュラム・マネジメントはあくまで手段であり，実践を進めながら，ＰＤＣＡサイクルにより，リニューアルしていくことも求められています。その過程では，教職員のベクトルがうまく揃わずに戸惑うこともあるかもしれませんが，お互いの実践をオープンに開いたりワークショップ型の研修などを実施したりすることによって，各自の教育観の違いを乗り越え，子供たちのためによりよい学校づくりを進めいってほしいと思います。

子供たちに「生きる力」をはぐくんでいけるようにThe Best より　Better
を目指し，みんなでよりよい学校づくりを！

おわりに

「芯の通った学校組織」ですすめるために・・・

学校全体で進めるカリキュラム・マネジメント「チェックシート」

□学習指導要領の改訂の趣旨や内容を共通理解するための校内研修を実施した

□学校の教育目標の見直しを行った
- □学校や地域，児童生徒の実態の分析
- □学校として育成を目指す資質・能力の共通理解
- □育成を目指す資質・能力の三つの柱を踏まえた学校の教育目標の設定

□学校の教育目標と重点目標や重点的取組の整合性の確認

□学校の教育目標実現の視点からの各教科等の授業及び校務分掌の捉え直し

□学校の教育目標との関連を図った総合的な学習の時間の目標設定

□教育課程の実施に必要な人的・物的体制の確保

□学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の編成
- □教科等横断的な視点
- □学年・学校段階間の接続の視点

□学校評価と関連付けた教育課程の評価・改善

（チェック日　　年　　月　　日）

参考にした資料

○今，求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（平成22年11月）
○中央教育審議会教育課程部会生活・総合ワーキンググループ資料（平成28年２月）
○学校評価ガイドライン（平成28年　文部科学省）
○幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）　平成28年12月21日　中央教育審議会

○小学校学習指導要領（平成29年告示）文部科学省
○中学校学習指導要領（平成29年告示）文部科学省

○小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総則編　文部科学省
○中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総則編　文部科学省

○小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総合的な学習の時間編　文部科学省
○中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総合的な学習の時間編　文部科学省
○中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編　文部科学省

○カリキュラム・マネジメントハンドブック
（田村知子・村川雅弘・吉冨芳正・西岡加名恵編著　平成28年６月　ぎょうせい）
○カリキュラム・マネジメント入門（田村学　平成29年３月　東洋館出版社）
○日本生活科・総合的学習教育学会会報NO.52　（平成30年４月１日）
○深い学び（田村学　平成30年４月）
○生活科・総合的学習指導者研修会
（平成30年２月10日　久留米市立高良内小学校長　四ヶ所清隆氏　講演資料）

○『芯の通った学校組織』推進プラン第２ステージ（平成29年３月　大分県教育委員会）
○新学習指導要領への移行スタート（平成30年２月　大分県教育委員会）
○竹田教育事務所　第１回地域授業改善協議会（平成30年６月）

○中津市立山口小学校　学校経営方針（平成29年度・平成30年度）
○佐伯市立鶴谷中学校　学校経営方針（平成30年度）
○佐伯市立松浦小学校　学校の教育目標と総合的な学習の時間の目標の関連に関する資料
○佐伯市立明治小学校　学校教育目標を「育成を目指す資質・能力の三本柱」で整理する

……この冊子についての問合わせ先……
大分市府内町3丁目10番1号
大分県教育庁義務教育課
ＴＥＬ：０９７－５０６－５５３４　　ＦＡＸ：０９７－５０６－１７９５